

東洋アルミグループ CSR報告書

CSR REPORT

2015



東洋アルミグループの事業はグローバルに展開しています。

私たち東洋アルミグループは、社会に有用で環境にやさしい製品とサービスの提供を目指しています。アルミ箔事業、アルミパウダー・ペースト事業、ソーラー事業、日用品事業に取り組み、日本国内ではリーディングカンパニーとしての地位を確立しています。絶えざる技術革新により創造したオンリーワン製品と業界最高水準に達した生産開発技術をグローバルなネットワークにより世界中に拡めることで大きく社会貢献しています。

- : アルミ箔事業
- : アルミパウダー・ペースト事業
- : ソーラー事業
- : 日用品事業
- : その他の事業



Contents

- 1 グループのグローバルネットワーク
- 2 Contents / 編集方針
- 3 トップメッセージ
- 特集1**
- 5 海外グループ会社のCSR活動の紹介
- 特集2**
- 7 新設された先端技術本部の未来
- 組織統治**
- 9 CSR活動について
- 10 CSR基本方針/CSR行動憲章
- 11 CSR活動アクションプラン
- 13 コーポレート・ガバナンス
- 人権**
- 14 人権
- 労働慣行**
- 14 多様な働き方の推進
- 15 労働安全衛生への取り組み
- 17 明るく健康な職場作り(AKS)活動
- 環境**
- 18 環境への取り組み
- 22 環境に関する規制遵守の状況
- 公正な事業慣行**
- 23 コンプライアンスへの取り組み
- 24 情報セキュリティへの取り組み
- 消費者課題**
- 25 品質保証への取り組み/消費者対応
- コミュニティへの参画およびコミュニティの発展**
- 27 地域社会貢献活動
- 30 学術支援活動

編集方針

■はじめに
本報告書は、東洋アルミグループのCSRに関する考え方や取り組みについて、ステークホルダーの皆さまにわかりやすくご報告し、ご理解をいただくことを目的としています。

■参考ガイドライン
本報告書は、企業の社会的責任に関するISOガイド(ISO26000)、環境省作成「環境報告ガイドライン(2012年版)」、GRI(Global Reporting Initiative)ガイドライン(2013)」を参考に作成しています。

■対象期間
本報告書のデータ集計期間は2014年4月～2015年3月です。
*一部、これ以前のデータおよび以降のデータも含まれます。

■対象範囲
東洋アルミニウム(株)および対象関連会社19社

■前回からの変更点
本報告書は今回よりISO26000中核課題に沿った形で報告するように変更しました。
グループ会社に関する情報を充実させ、東洋アルミグループ全体でのCSRに関する取り組みを知っていただけるように努めました。特集ページでは「海外グループ会社のCSR活動の紹介」と「新設された先端技術本部の未来」を取り上げました。

■発行時期
2015年9月(次回:2016年9月予定、前回2014年9月)

■表紙デザイン
イノベーションの原動力「人」がつかがるをテーマに、「一人ひとりの従業員が顧客の満足をつなげていくことで、安全で社会に役立つ高付加価値製品を産み出す」ことを表現しました。

トップメッセージ

CSRの考え方を基盤として

「**捲土重来**」をモットーに「**グローバル展開**」、
「**新製品の開発**」、「**全社コストダウン**」の三本の矢を
推進することで**VISION2016**を完遂します。



代表取締役社長

山本博

2014年度を振り返って

2014年度は国内では「関東の大雪」「広島集中豪雨」「御嶽山の噴火」などの自然災害や、「食品の異物混入」事件、海外では「マレーシア航空機墜落」「ISILのテロ」「エボラ出血熱」など事故、事件も多く発生した年でした。

また国内経済では消費税率が8%へ上昇したことでGDPが伸び悩みなど舵取りの難しい年でした。ビジネスのグローバル化は益々進展していきますので、私たちは自然災害、事故、事件など予期せぬ変化に対応できるよう日頃の危険予知と想定訓練を実施していくことで、企業の社会的責任を果たすためにCSR経営を進めていかねばなりません。

グローバル展開の推進

1. アルミ箔事業では国内市場収縮の対策として、海外展開をしていきます。具体的には日本軽金属グループのタイに拠点を置くNikkei Siam Aluminium Limited (ニッケイ・サイアム・アルミニウム社)への技術支援を開始しました。拡大するASEAN市場で品質の優位性を武器に顧客満足度を上げ拡販に努めます。
2. アルミパウダー・ペースト事業は、アメリカ、フランス、中国、日本の4極のプロダクション・シェアリングをさらに強化していきます。またグローバルマーケティング部門の活動を活性化させ、インド・ASEAN市場でのシェア拡大を目指していきます。
3. ソーラー事業は中国の肇慶東洋鋁業有限公司に集約した効果がでてきました。顧客の多い中国では、原材料の調達から生産・販売までを中国で一貫した体制にすることにより、コストダウン、短納期対応のメリットを活かし、あわせて商取引の改善によりトータルソーラー®は業績が改善できました。

環境対応の新製品開発推進

1. アルミペースト事業では有機溶剤を使用しない、環境にやさしい水性塗料用ペーストのニーズに対応するため、国内外でシリカ処理ペーストの生産能力を増強していきます。
2. アルミパウダー事業では、放熱用基盤材料である窒化アルミの増産に対応しました。ハイブリッド車を中心に市場が拡大しており、CO₂削減、省エネルギーに貢献していくと期待しています。
3. 清潔さ、蓋への付着物減少で好評価をいただいている、撥水性材料「トータルロータス®」をヨーグルト以外の工業用途に広げる活動を進めています。また撥油性材料「トータルウルトラロータス®」も製品化の目処が立ってきました。

4. このように、市場ニーズに対応する、マーケットインの発想で新製品開発に注力するために先端技術本部を今年1月に設置しました。従来は分散していた研究開発部門を統合することで事業本部間の横の連携や外部機関との共働を深め、研究開発のスピードアップを図り、全く新しい商品のアイデアを生み出していくことで、箔、パウダー・ペースト、ソーラー、日用品に次ぐ第5の新事業確立を目指します。

2015年度は「捲土重来」をモットーに

東洋アルミグループは2013年度以降業績が回復しています。「捲土重来」をモットーに今までに培った技術開発力を活かし「環境革命に対応した付加価値力のある新製品開発」に経営資源を投入し、社会の持続的発展に貢献する所存です。

このCSR報告書を通じて、ステークホルダーの皆さまに東洋アルミグループの活動をご理解いただければ幸いです。

経営理念

私たち東洋アルミグループは、

1. 堅実な事業経営を通じて、常にお客様に感動を与え、社会に有用で、且つ環境にやさしい製品およびサービスの提供を目指します。
2. 絶えざる技術革新に努め、高い技術力を活かした製品の提供に努めます。
3. 生き活きとした自由闊達な企業風土を育み、集団の天才を目指します。
4. 社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。

行動方針

「未来を創る、私が創る。」

1. 一流を目指そう。
2. 知恵くらべに勝とう。
3. コミュニケーションを深めよう。
4. 失敗力を身につけよう。
5. 感性をもっと働かそう。
6. アライアンスの構築を図ろう。
7. 安全への意識をもっと高めよう。

海外グループ会社のCSR活動の紹介

東洋アルミグループは海外にも拠点をもち、グローバルに活動しています。その中で今回はアメリカにあるトーヤル アメリカ社 (以下 TAI) と、中国にある湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司 (以下 吉唯信)、肇慶東洋鋁業有限公司 (以下 肇慶東洋) の3社のCSR活動について紹介します。

トーヤル アメリカ社

安全への取組み 2014年度災害ゼロに!

TAIはアルミパウダー、ペーストを製造、販売する企業です。創業より安全には最優先で取り組んできましたが、長い間災害をなくすることはできませんでした。しかし、2014年度に休業、不休業の災害を、初めてゼロにすることが出来ました。下のグラフは、TAIのOSHA (Occupational Safety and Health Administration 米国労働省の一機関である労働安全衛生庁)の基準の災害数の推移です。

改善できた理由は、いくつか挙げられます。

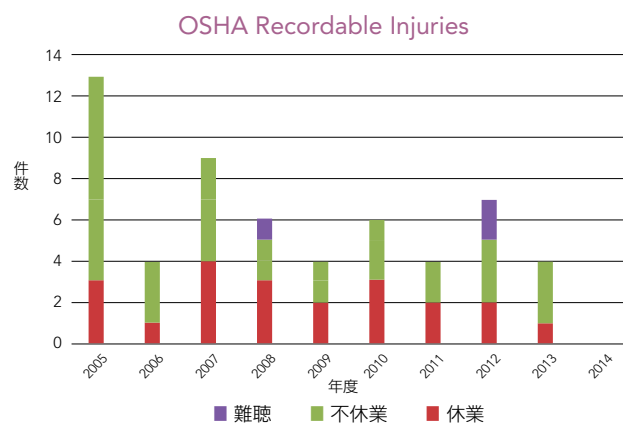
第一に、Global Safety Workshopという、欧米のパウダー、ペースト関連の企業が出席し、安全や環境の課題についてディスカッションする場が隔年であるのですが、この会議に出席し、各社の事故事例などを聞いて、議論していることが大きな理由として考えられます。ただ出席するだけでなく、各社が安全や事故の事例をプレゼンし議論し共有します。規模も大きく、2014年は60人以上が出席しました。同業他社ですが、安全についてはお互い情報を提供し、共有します。これは続ける価値があると考えています。

また、東洋アルミグループでのToyal Group Safety Meetingの実施が挙げられます。グループ会社が1~2年に一度集まり、安全ミーティングを行います。

グループ会社同士の打ち合わせなので、忌憚りの無い意見を交わすことができ、より深い議論が出来ることになり、こちらも安全の改善の大きな原因のひとつと考えています。


その他、コンサルタント契約をしたり、監査体制を整えたり、教育制度を改善したりしたことが要因として挙げられます。また、使用機器をより安全なものに変更するなどの取組みをした結果、徐々にですが、着実に安全のレベルが上がってきた

のではないのでしょうか。



元副社長 Barry Van Hoose

災害ゼロという素晴らしい記録を達成するまでには、非常に長い時間がかかりました。決して一人ではできません、皆で成し遂げたことだと思います。安全が重要であるという認識を従業員、経営陣に持ってもらうことがとても大事であると分かりました。私は今回、災害ゼロを達成した次の年に引退するので非常に幸せですが、今後も続いて欲しいと思います。



湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司

事故応急救援対応訓練活動

吉唯信はアルミパウダーを製造、販売する企業です。アルミパウダーは爆発や火災などを発生する恐れがある、取扱いに注意が必要な製品です。万が一、災害が発生した際には、早急で適切な対応が必要となります。


そこで、2015年3月18日に事故応急救援対応訓練を実施しました。訓練した主な内容は、「警報を出す」、「現場応急処置および救命を行う」、「応急器材を正確に使用する」などです。

今回の事故応急救援対応訓練を通して、一連の流れを把握し、各救援グループの対応スピードと現場処置能力を向上させ、部門間の協力体制をより一層強めました。



分級班長 鄧曙光 (ジョウ シュウカン)

「火事だ! 火事だ! 分級3ラインが火事だ!」という声が聞こえたので、火災警報器を鳴らし、分級3ラインへ走り出しました。担当リーダーが救援員を集めて消火活動を始め、各応急救援グループメンバーも、指揮に従って救援活動を実施しました。「あ、忘れていた! これは訓練だ。」と最後に気づくほど、今回の応急救援訓練は本当の火災のような緊張感で実施されました。皆が訓練を真剣に取り組むのを見て、これからは安心してここで働くことができると感じました。



肇慶東洋鋁業有限公司

QC活動

肇慶東洋はアルミペースト、太陽電池用部材などを製造、販売する企業です。

「全員参画」「新規創造」「多角的な視点で持続改善の実施」の三つの方針を基に、快適な職場環境を作って、従業員の業務に対する積極性、創造性を向上させるために、QC活動を2012年から行っています。継続的に活動を展開して来て、より生産現場の実態に即した内容になってきました。

多くの従業員が積極的に参加し、活動を通じてチームワークが強化され、従業員の団結力が高まりました。

また、考え方や、言葉の表現方法、対応能力などが鍛えられて来たと感じています。

2014年10月29日に第3回QC成果発表大会が実施されました。8つのQCチームが1年間で展開されたQC活動のプロセスおよび成果を発表しました。

1等賞、2等賞、3等賞以外にも、「優秀指導員」、「優秀グループ長」、「優秀顧問」の賞も選出され、大変有意義な発表会となりました。

私たちのQC活動は、スピードの面、活動範囲の面、対象業務の面などにまだまだ改善の余地があります。今後は、これらの

課題を解決する方向で活動していくようにしたいと思います。今年度は10のチームが活動を開始しています。


今後は制度を改善し、多方面でQC活動の展開を推進していきます。QC活動を長期的に前向きに発展させていきます。



1等賞の発表者が発表中

工務部 彭向紅 (ハンシャンホン)

私たちのQCサークルの課題は、ドライラミ機のフィルムを継ぐ作業の際に、切断異常で停止する時間を減少させることです。サークルメンバー各人の知識と技能を活かしてドライラミ機に数々の改善を施し、設定した目標値を達成することができました。QC活動では、個人の能力と経験がステップアップする上に、メンバーを信じてチームワークで課題に取り組み、解決することも身に付きました。サークルのスローガンは「一致団結して業績を上げる」です。これからもこのスローガンを念頭に置き、QC活動を継続させて会社に貢献出来るように頑張ります。



肇慶高新区テレビニュースに放映

中国では最近、全国各地において事故が発生しています。特に2014年8月2日に昆山のある工場で発生した、アルミ粉塵の爆発事故は記憶に新しいと思います。

肇慶東洋は、この工場と同じくアルミパウダーを扱う会社です。類似の設備が設けられ工事も似ていると思われる。

この事故の報道を受け、肇慶東洋では迅速に行動を取り、人員、生産工程、資金などの多方面で投資を拡大し、安全対策を実行しました。

まず、安全環境課、工務部、製造課はアルミパウダー集塵装置の専門検討会議を開き、存在する問題一つひとつに改善対策を提出し、実行してきました。

次に、「アルミパウダー操作系統安全検査表」を編成し、日常の点検で潜在する問題点を発見、解決しやすくしました。

また、従来の集塵機を、より良い防爆機能を備えた集塵機に更新することにより安全性を高めました。

最後に、東洋アルミニウム(株)CSR推進室と、Global Safety Workshopの事故事例について安全学習会を行いました。

そして2014年8月19日には、肇慶東洋が安全生産、職業衛生管理などで模範的だとして、肇慶高新区テレビより取材を受け、それが報道されました。

取材のなかで、EA工場の工場長と工務部長がインタビュー

され、安全体制について聞かれました。工場長は、「まず、会社には健全な三級安全教育制度(会社、部門、班組)というものが、会社に入る前に厳格な教育を受けて初めて仕事に就きます。次に、工場内には安全生産標語の掲示をしています。生産区域には、安全第一、健康第一の注意標語や操作規程などを至る所に掲示しています。また、会社は根源から危険源を抑えるよう、設備や装置の設置をしています。」と答えました。

工務部長は、「会社はとても安全な施設、設備の維持とメンテナンスを重視し、安全な施設の維持とメンテナンスの努力により、従業員を傷害から避け、また粉塵爆発などの事故を防ぎます。」と答えました。

肇慶東洋は常に従業員の心身健康を第一に考え、従業員全員に厳格なルール制度で通勤すること、制服を着用すること、業務終了後には掃除して帰ることを要求しています。

安全生産、幸福同行!(安全と幸せは繋がっているもの)をモットーに、肇慶東洋は常に安全第一を一つひとつの仕事に結びつけ、会社の生産安全と従業員の身心の健康は経営発展には不可欠で、我々が負うべき社会的責任だと考えています。



テレビ放映の1シーン

新設された先端技術本部の未来

2015年1月5日付けにて新たに発足した先端技術本部は、アルミ箔、アルミパウダー・ペースト、ソーラー、日用品の4つの戦略的事業単位に加え、新たな第5の事業の柱となる新商品開発を目指しますが、これは先端技術本部の未来であり、東洋アルミグループの未来でもあります。その未来について、先端技術本部の多田裕志本部長に、CSR推進室の福井康司室長が伺いました。



福井: 2015年1月5日付けで発足しました先端技術本部ですが、抱負をお聞かせ願えますか？

多田: 先端技術という名の通り、今までと同じことをしては駄目で、違うことをしなければならないという意識付けが大事だと思っています。研究員の意識を、従来の既存のものだけでは駄目だという風に変えていき、第5の柱を創造したいと思っています。

福井: 前から、先端技術本部のような部署をつくるべきだと思っていましたが、今まさにタイムリーな時期ではないかと思えます。また、コアテクノロジーセンターをコーポレートR&DとディビジョナルR&Dとに分けたのは良かったと思えますね。各事業所に存在していた、ディビジョナルな組織を統合したことには大きな意味があると思えます。

多田: そうですね、昔は事業部の壁のようなものがあり、このような組織をつくるのは難しいものがありました。危機感を持ち、今やらなければならないという、時代的背景も設立のきっかけになったと思えます。

福井: 事業部の壁を超えた新規材料開発についてはTNT委員会^{*1}で検討されるということでしたが、限界があったのでしょうか？

多田: 研究開発に携わっている技術担当者はどうしても自分の身近な仕事を最優先しますので、TNT委員会で議論された材料開発の取組みは、別の依頼事項という意識があり、どうしても限界がありました。

今回先端技術本部が発足しましたが、実際のところまだ、ディビジョナルR&Dメンバーは事業本部に向いているように感じられ、変えていかなければならないと思っています。

福井: 新しい商品は、違う技術の融合から新しい技術が生まれることが多いと思えますが、それが、まさにディビジョナルの考え方に合致していると思えます。

また技術者のインターンシップ^{*2}も良い試みですね。違う部署に行き技術交流をするというのは、将来その社員や先端技術本部にとって非常に良い影響を与えるだろうと期待できますね。

多田: おっしゃる通りです。また、今は、別の新しい試みもしています。

大学へ最先端の技術の勉強をするために、若手の社員を送り込んでいます。内容は、最先端技術についての講義で非常に難しいですが、少しでも新しいネタを会社に持ち帰ってくださることを期待しています。

福井: トライアンドエラーですね。

多田: まさにその通りです。成功するか、失敗するかを考えていても仕方ないので、実際にやってみて、何かを得たいと考えています。

福井: 開発のターゲットとして、5つの分野^{*3}のキーワードを挙げて



対談

多田 裕志 × 福井 康司

常務執行役員
先端技術本部 本部長

取締役常務執行役員
CSR推進室長
※役職は2014年度当時のものです。

いますが、その中の「環境・エネルギー」とはどのようなものですか？

多田: 例えば、リチウムイオン電池などの電極材料になります。また、再生可能エネルギーの太陽電池なども対象になります。究極のアルミ箔の開発にも取り組んでいます。



福井: 環境・エネルギー分野はこれから大きく伸びることが期待されており、さまざまな新商品、新技術の可能性が広がっています。それだけに競争も激しく、開発のスピードアップが求められています。

それでは、「ライフイノベーション」とはどのようなものですか？

多田: 基本的には、TEP(東洋アルミエコープロダクツ(株))が扱っているような日用品のイメージです。東洋アルミ(東洋アルミニウム(株))の基礎技術をTEPの商品に融合させるとい、これは先端技術本部を設立した大きな意味合いのひとつでもあります。

福井: 先端技術本部の設立の目的は、アルミ箔、アルミパウダー・ペースト、ソーラー、日用品の次の5つ目の柱を創造することだと思えますが、具体的にはどのようなものですか？

多田: ひとつの商品をイメージするというのは難しいですね。例えば、バイオ再生医療などを起点に枠を広げて行けたらと思っています。

福井: 面白い視点ですが、課題も多いですね。

多田: そうですね。ただ、いろいろなところへのアプローチを進めていると、さまざまな情報が入ってくるので、まずは、業界に入っていくことが必要だと考えています。

新商品は、当たるとは限らないですし、上市するタイミングもあります。時代の波に乗らなければなりません。時代のニーズに合ったものでなければなりません。

トータルカーポ[®]などは、開発当時、「使ってやろう」というところがあったので成功例となりました。正確な情報をより早く入手することも必要になりますね。

福井: 先端技術本部は、新商品開発を継続するのか、止めるのかを判断しなければなりません。これは難しいことですが、どう進めていきますか？

多田: マーケットを見て、市場規模を確かめます。ただ、そうは言っても、おもしろい技術は持っておくべきだと考えています。現在のマーケットでは市場性が無いものでも、育てていくべきテーマもあります。その判断となる情報をまとめるのが、新設の技術戦略部です。

福井: 感性の部分があり、管理者の責任は大きいですね。

多田: 大変ですし、時には間違えることもあると思えます。

ただ、技術開発は、やってみなければ分からない部分が往々にしてあります。

当社の行動方針のひとつであります、「失敗力を身に付けよう」がまさにそのことに当たります。

福井: 新商品の開発は、千三つと言われています。失敗するかもしれないけれども、しかし売り上げも期待されるので、非常に辛い立場ですね。

さて、今後成長が期待される事業領域の材料、部材として、高変換効率次世代太陽電池発電素子部材、高エネルギー効率蓄電電極材料、環境改善部材などを挙げられていますが、環境改善部材とはどのようなものですか？

多田: 触媒材料のようなものです。空気洗浄機などに使われたりする触媒です。

それを、材料で供給するだけではなくて、最終商品としても上市したいと考えています。

B to Bではなく、B to Cへのマーケットへチャレンジしたいと思えます。

生活者の方にご判断いただいて、望まれるものを、お手元に届けたいと思えます。

福井: 最後に、今後の意気込みをお聞かせ願えますか？

多田: 研究開発は、一番はスピードです。スピードアップさせるために、この組織が発足したと言っても過言ではありません。研究開発部門を統合することにより部門間の壁を取っ払って、どの研究員もスピーディーな研究開発を実施していきます。また、オープンイノベーションを実施し、当社で持っていない技術が必要であれば、アライアンスを構築し、技術を持っている他社や大学などと協働も積極的にやっていくつもりです。これからは、やはり環境やエネルギーといった言葉がキーワードになります。このキーワードを念頭に研究開発をすすめていきたいと思います。そして少しでも早く、第5の柱を明確にしたいと思っています。アイデアはたくさんあり、あとは早く具現化することのみです。

福井: 今日は色々お話を聞かせていただき、ありがとうございました。また、最後に心強い決意をお聞かせくださりありがとうございました。

多田: ありがとうございました。

TNT委員会^{*1}: Toyo New Technology 東洋アルミ・新技術委員会
インターンシップ^{*2}: インターンシップ制度のことで、短期間違う部署で業務を行い、経験を積む制度

- 5つの分野^{*3}: 研究開発対象分野
1. 環境・エネルギー
 2. 運輸・自動車
 3. 土木・建築
 4. 医療・健康・介護
 5. ライフイノベーション

CSR活動について

CSR活動について

東洋アルミグループでは、伝統的に信用を重んじ誠実を旨とする、人を大切にする経営を目指す、新製品新技術の開発志向を高く保つ、という考え方がありました。これらの考え方が現在の経営理念に集約されています。

東洋アルミグループも年々規模が大きくなり、多くの仲間を迎え入れてきました。

しかし、事業を展開していく中でその基盤となるのがこの経営理念です。

経営理念の中の「社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。」という言葉に、私たちのCSR活動の基本的な考え方が集約されています。企業の発展は社会からの信用が基本となるからです。

この考え方に基づいて、東洋アルミグループ全体のCSR活動を展開しています。これらの活動内容をCSR報告書にまとめてみました。ご覧いただき、私たちのCSR活動をご理解いただく一助となれば大変嬉しく思います。

本年度の報告書では、特集として、海外の関連会社のCSR活動や、先端技術本部の環境関連製品開発の取り組みを取り上げてみました。

さらに、昨年に引き続いてダイバーシティマネジメント、地域社会への貢献活動、学術支援活動の内容も充実させました。東洋アルミグループ共通の課題や進むべき方向をご理解いただければ幸いです。

今後もこれらの取り組みを積極的に展開していくことによって、CSR活動の充実に努め、お客さまを始めとしたステークホルダーの皆さまから信頼される企業グループであることを目指していきたいと考えています。皆さまの一層のご支援をお願い致します。



取締役常務執行役員 CSR推進室長

福井 康司

※役職は2014年度当時のものです。

CSR基本方針 / CSR行動憲章

CSR基本方針

東洋アルミグループは、健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指します。そのために、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動の展開、安心してお使い頂ける製品品質の提供、地球環境と調和した経営活動の推進、および労働安全衛生を職場の最優先事項とした活動を通じて社会的責任を果たす経営を展開して参ります。

CSR行動憲章

東洋アルミグループは、アルミ箔事業、パウダー・ペースト事業、ソーラー事業、日用品事業を中心とした商品・サービスの提供を通じて広く社会に貢献する。そのために健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指して、以下の7原則に基づき行動する。

1. 法令遵守

関係法令および規則を遵守することはもとより、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動を行う。

2. 消費者・顧客の満足と信頼

社会のニーズを的確に把握し、社会的に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、消費者および顧客の満足と信頼を獲得する。

3. 社会との関係

広く社会とのコミュニケーションを図るため適正に企業情報を開示し、また、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。企業活動においては公正で自由な競争を行う。また地域社会との良好な関係の構築に努め、よき企業市民として積極的に社会に貢献する。

4. 従業員のゆとりと豊かさの実現

人を大切にする企業として、従業員の多様性・人格・個性を尊重し、安全と衛生を第一と考えた働きやすい職場環境を確保し、従業員のゆとりと豊かさの実現に努める。

5. 国際社会との協調

グローバル企業として、人権を含む各種の国際ルールや現地法を遵守するとともに、現地の文化や慣習を尊重する。

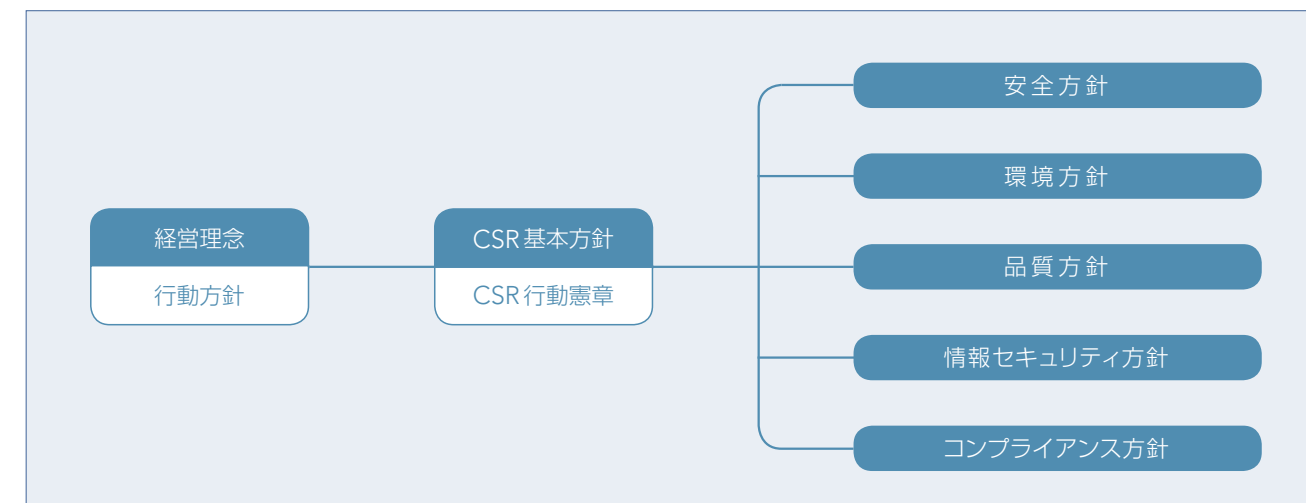
6. 環境への取り組み

環境への取り組みは、企業の存続と活動に必須の要件であるとして主体的に行動する。

7. 行動憲章の周知徹底

経営トップは本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識して率先垂範し、グループ全体に徹底するとともに、取引先にも促す。

経営理念とCSR基本方針



CSR活動アクションプラン

東洋アルミグループでは、安全衛生推進・環境調和・品質保証・情報セキュリティ推進・コンプライアンス推進に重点を置いたCSRの取り組みを進めています。また不測の事態に対処するための組織的な危機管理、社会貢献、従業員の心身の健康を守るための「明るく健康な職場作り活動（AKS活動）」も東洋アルミグループのCSR活動の重要な課題となっています。

それぞれの活動における2014年度の主な実績、2015年度の重点活動を一覧表にしたアクションプランを作成しました。

項目	2014年度			2015年度重点活動
	重点活動	評価	主な実施例	
安全衛生推進	・安全ミーティングの実施（東洋アルミグループ各事業所）	○	・国内各事業所および中国、フランスの製造事業所で1回実施	・安全ミーティングの推進（東洋アルミグループ各事業所）
	・社長パトロールの実施（東洋アルミグループ各事業所）	○	・国内各事業所で1～3回実施	・社長パトロールの推進（東洋アルミグループ各事業所）
	・東洋アルミグループ職場安全活動発表大会の実施	○	・東洋アルミグループ職場安全活動発表大会を1回実施	・東洋アルミグループ職場安全活動発表大会の開催
	・リスクアセスメントのPDCAを回す仕組み作り	○	・国内事業所数箇所においてリスクアセスメントの個別指導を実施	・安全管理システム構築の準備
環境調和	・エネルギー使用量の削減（原単位で1%の改善目標）	×	・東洋アルミグループ各事業所にて省エネルギー活動を実施	・エネルギー使用量の削減（原単位で1%の改善目標）
	・産業廃棄物の削減（原単位で2%の改善目標）	×	・東洋アルミグループ各事業所にて産業廃棄物削減活動を実施	・産業廃棄物の削減（原単位で2%の改善目標）
	・環境監査の実施（グループ会社）	○	・3事業所にて実施	・環境監査の実施（グループ会社）
	・改正された法令（水濁法 ^{*1} 、省エネ法 ^{*2} ）への対応	○	・水濁法の対応完了、省エネ法への対応（電気需要平準化対応）	・改正された法令（フロン排出抑制法など）への対応
品質保証	・東洋アルミグループ各事業所相互の品質監査実施	○	・品質監査実施（1回）による品質保証レベルの確認	・東洋アルミグループ各事業所相互の品質監査による品質保証レベル向上
	・新技術、新製品、4M ^{*3} 変更時における品質審査会議の実施	○	・品質審査会議の開催数 13件	・新技術、新製品、4M変更時における品質審査会議による品質事故未然防止
	・ヒューマンエラー防止策の実施	○	・東洋アルミグループ各事業所で取り組み実施	
情報セキュリティ推進	・東洋アルミ千葉（株）における拡大認証取得の準備	○	・規格およびマネジメントシステムの教育、ローカルルールの確認と規程化	・東洋アルミ千葉（株）における拡大認証登録
	・ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）新規格（ISO/IEC27001:2013）への対応	○	・ISMSマニュアルの改訂、規程類・様式の制定・改訂	・ISMS組織体制の見直し
	・ISMS新規格による認証取得活動および認証取得	○	・内部監査、MR（マネジメントレビュー）、外部審査を経て認証取得	・東洋アルミグループのコミュニケーションの円滑化
コンプライアンス推進	・独占禁止法および下請法関連リスクの対応	○	・独占禁止法および下請法力量テストの支援および専門家による講演会の実施	・力量テストの支援および講演会の実施
	・コンプライアンス活動の推進	○	・東洋アルミグループ各事業所にてPDCAシステム構築をスタート（3年計画）	・コンプライアンス推進PDCAサイクルの定着
	・コンプライアンス推進グループ体制の強化	○	・コンプライアンス推進計画の策定に併せて推進グループ体制を強化	・確認会議を定期的の実施および相談ライン窓口メンバーの養成
	・コンプライアンス・ミーティングの実施	○	・東洋アルミグループ全従業員を対象に実施（2回）	・コンプライアンス・ミーティングの充実
危機管理	・東洋アルミグループ各事業所への防災マニュアル作成指導	○	・地震対応防災マニュアルを作成	・防災マニュアルの見直し
	・東洋アルミグループ総合防災訓練の実施	○	・第3回総合防災訓練を関西地区で実施	・総合防災訓練の実施
	・海外安全セミナーの実施	○	・海外赴任者、海外出張者向けの危機管理セミナーを実施	・海外安全セミナーの実施
社会貢献	・（公財）軽金属奨学会の活動支援	○	・（公財）軽金属奨学会の活動支援の実施	・（公財）軽金属奨学会の活動支援
	・地域社会貢献活動の実施	○	・東洋アルミグループ各事業所での社会貢献活動実施	・東洋アルミグループ各事業所での地域社会貢献活動推進
AKS活動 （明るく健康な職場作り活動）	・AKS講演会の実施	○	・外部講師を招いて各事業部門にて計6回実施	・AKS講演会の実施
	・東洋アルミグループ各事業所におけるAKS活動	○	・家族見学会や、製造所内交流など、各事業所にて実施	・AKSコミュニケーションミーティングの推進
	・AKSアンケートの結果から対策検討会の実施と対策の実行	○	・役員を対象とした会議やAKSワークチーム定例会議にて定期的にフォローを実施	・AKSアンケート結果対策のフォロー

水濁法^{*1}: 水質汚濁防止法 省エネ法^{*2}: エネルギーの使用の合理化等に関する法律 4M^{*3}: ヒト、モノ、設備、方法

備考: ○=達成 △=一部未達成 ×=未達成

コーポレート・ガバナンス

東洋アルミグループでは2010年に東洋アルミグループ経営理念ハンドブックを冊子として初めて全従業員に配付しました。全従業員に携帯させることで経営理念や行動方針をより明確に示し、従業員の行動の指針となるようにしています。加えてCSR基本方針、CSR行動憲章なども掲載し、CSR体制を構築するよう努めています。

内部統制システム

東洋アルミグループでは、金融商品取引法に基づく「適正な財務報告を作成する」ためのプロセスを構築すると共に、会社法に基づく「リスク管理」や「独占禁止法」などの法令遵守姿勢を明確にし、監査・見直し・改善を進めながら、グループ会社全体の内部統制システムの充実を図っています。

本年度は会社法改正に伴い、「内部統制システム整備基本方針」を改訂しました。

リスクマネジメント

東洋アルミグループでは、グループ・リスク管理規則において、グループにおけるリスク管理に関する基本的事項を定め、事業を取り巻くさまざまなリスクに対して、事業戦略と調和した的確な管理・実践を通じ、企業価値の持続的向上に資することとしています。

個別の取組みに加えて、東洋アルミグループとして総合的な管理が必要な9つのリスクを「重点対策リスク」とし、リスク管理推進のための担当部門を定めています。

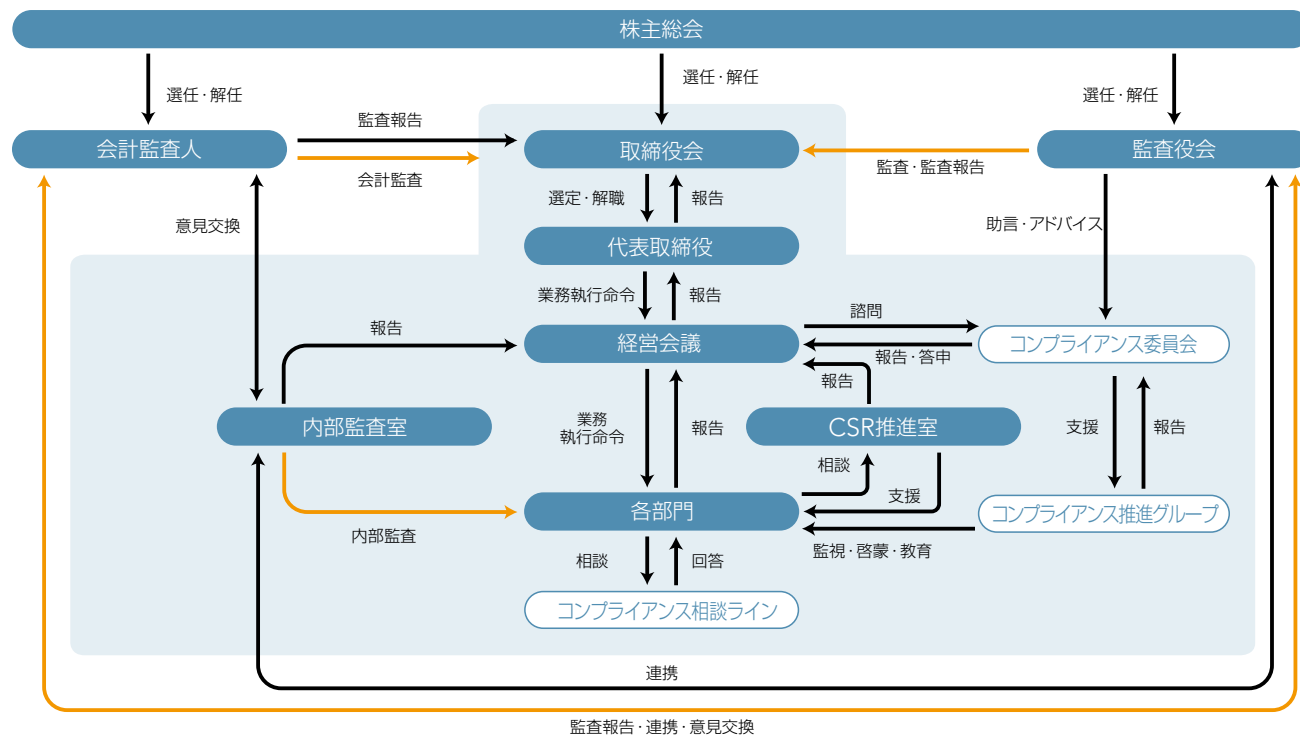
東洋アルミ代表取締役社長をグループ全体の最高責任者とし、東洋アルミ取締役およびグループ会社代表取締役社長は、リスク管理責任者として担当する部門・会社におけるリスク管理について指導・統括する責任を負います。

この「重点対策リスク」については、内部監査室が担当部門に対し総合的な監査を半期毎に行い、その結果を経営会議に報告します。経営会議メンバーは、リスク管理責任者に対し必要な助言を行い、特に取組みが不足しているリスク管理については、是正措置などの検討を指導します。

重点対策リスク*

- | | |
|----------------|---------------|
| (1) 製品・サービスの欠陥 | (6) 企業・個人機密流出 |
| (2) 環境問題 | (7) 適時情報開示の懈怠 |
| (3) 自然災害・事故災害 | (8) 安全保障貿易管理 |
| (4) 安全・衛生問題 | (9) 海外危機管理 |
| (5) 情報システム問題 | |

コーポレート・ガバナンス体制



人権

東洋アルミグループは、人権尊重の考え方を、事業を展開する上ですべての企業に課される責務であると考え、その実現に努めています。

基本的人権の尊重

東洋アルミグループは、人権尊重の考え方を、企業が遵守すべき最も重要な社会的規範のひとつであると考えています。

CSR行動憲章においても、人を大切にする企業として従業員の多様性・人格・個性を尊重すること、ならびにグローバル企業として人権を含む各種国際ルールや現地法を遵守することを定めています。

労働における基本的権利

東洋アルミグループでは、労働における基本的権利を擁護

すべく、強制労働の禁止、雇用における差別の排除、児童労働の禁止といった規範を遵守しています。

相談窓口の設置

東洋アルミグループでは、従業員からの相談窓口として、「コンプライアンス相談ライン」を設置しています。コンプライアンス違反リスクの発生を未然に防ぐための内部通報制度としてスタートしたのですが、ハラスメントをはじめとする人権侵害にかかる事案についても広義のコンプライアンス違反ととらえ、従業員からの相談・通報を受け付けています。

労働慣行

多様な働き方の推進

東洋アルミグループでは、人を大切にする企業として従業員の多様性・人格・個性を尊重すべく、多様な働き方への支援の推進をしています。

次世代育成支援対策の取組み

東洋アルミグループは、次世代育成支援対策推進法に基づき、雇用環境の整備に関する事項についての一般事業主行動計画を作成し、2018年(平成30年)3月31日までの実現に向けて取り組んでいます。

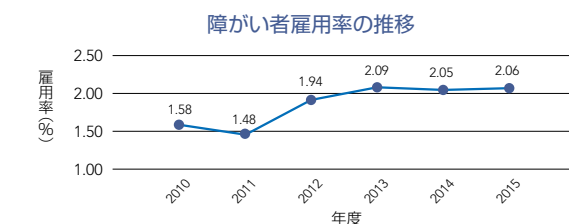
1. 妊婦に対する短時間勤務制度の導入
2. 所定外労働削減のための措置の実施
3. 場所・時間にとられない働き方の導入

ダイバーシティの推進

東洋アルミグループでは、外国籍社員、障がい者、女性、シニアといった多彩な属性の人材活用を力を入れています。

外国籍社員については、事業のグローバル化を一層深めていくために、外国籍社員のキャリア採用や海外留学生の新卒採用などを積極的に活用し、企業風土の国際化を推進していきます。

障がい者雇用については、法定雇用率の遵守は当然のことながら、それぞれの個性に応じた仕事の創出に努め、貴重な人財の活用を図ります。



女性社員については、役員や管理職といった役職に就く人材がまだまだ多くないので、女性社員の個々のキャリアを支援して

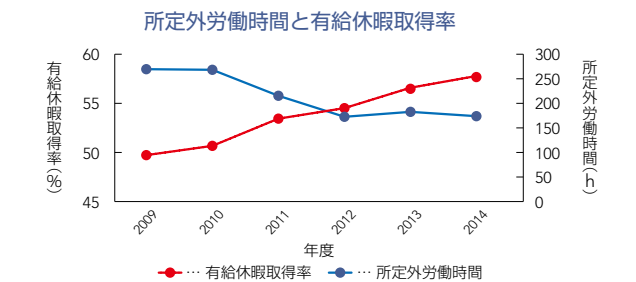
いけるサポート体制を充実させていきます。

また、シニア層の活用に関しては、高いモチベーションを維持しながら働き続けてもらえるエルダー制度を導入し、豊富な経験を活かした技能伝承や重要任務を担ってもらっています。

ライフワークバランス*の推進

東洋アルミグループは、仕事と子育てとを両立できるといった、充実した生活とやりがいのある仕事との調和に向けたサポートを推進しています。具体的には、育児のための短時間勤務期間を小学3年生までに適用拡大するといった、各種支援制度の法定以上の水準への拡充に向けて取組みを進めています。

また、年間総労働時間の削減については、ゆとりを持って働くことができる職場環境の整備に向けて、労使での取組みを継続しています。具体的には、半日有給休暇制度、リフレッシュ休暇制度、朝型勤務の奨励などに取り組んでいます。以下に年間所定外労働時間の組合員平均と有給休暇取得率(当年使用日数/当年付与日数)の推移を示します。



ライフワークバランス*: 東洋アルミグループでは、従業員の豊かな生活を重視し、「ライフワークバランス」という言葉を使っています。

労働安全衛生への取り組み

東洋アルミグループは「労働安全衛生が職場において最優先事項である」という理念の下、東洋アルミグループで働く全ての人の労働安全衛生への意識を高め、安全で働きやすい職場環境を整えるため活動を進めています。

東洋アルミグループ職場安全活動発表大会

2014年7月に「第8回東洋アルミグループ職場安全活動発表大会」を開催しました。

安全活動の発表は、東洋アルミグループ対象15事業所より予備審査を経た7事業所の代表職場が行いました。

各職場で取り組まれた優れた安全活動の報告を通して、東洋アルミグループ全体で安全活動の情報を共有化し、安全活動のレベルを上げていくことで、更なる安全を目指すことを目的としています。

各発表に対して最優秀職場賞、優秀職場賞、優良職場賞が選出授与され、安全活動の労をねぎらうとともに更なる安全活動の促進を確認しました。



山本社長と発表者

表彰風景

八尾製造所 大阪労働基準連合会会長賞 奨励賞受賞

健康が確保され安全で安心な職場の実現を目指し、労働災害を減少させるため、全国安全週間初日の2014年7月1日に大阪労働局および管内各労働基準監督署が主唱し、公益社団法人大阪労働基準連合会ほか府内11の労働災害防止団体などが主催する「ゼロ災・大阪『安全見える化運動』」推進大会が開催されました。

大会では、平成26年度の安全衛生表彰も行われました。その中で八尾製造所が労使協力して職場の安全に努力し労働災害防止に努めたことが認められ、大阪労働基準連合会会長賞の奨励賞を受賞しました。



表彰状

日野製造所 第33回東近江行政組合日野消防署 初期消火大会優勝

日野製造所が東近江地区で行われた初期消火大会に参加しました。

この大会の目的は、消火器や屋内消火栓を迅速かつ安全・確実に使用できる技術を身につけることです。東近江地区の企業より多くの方々に参加され、タイムと正確性を競いました。

2人1組で競う消火器の部では、ミスなく、自己ベストタイムで優勝することができました。沢山の方々からの助言をいただきながら練習を積み重ねた努力の結果であると思います。



表彰盾と表彰状を掲げて

大会風景「119番通報の指示」

一般社団法人 日本アルミニウム協会からの表彰

2015年5月28日一般社団法人日本アルミニウム協会第35回定時総会において、平成26年度労働安全優良事業場「特別優良賞」を日野製造所が、「優良賞」を御所工場がそれぞれ受賞しました。

日野製造所においては、4年連続の栄誉となります。



日野製造所長受賞

御所工場長受賞

東洋アルミグループの安全関連記録は以下の通りです。

連続無災害2000日達成：群馬製造所（2014年6月18日）

2014年度の災害〔東洋アルミグループ全体〕

〔国内〕
・休業災害 1件、不休業災害 3件

〔海外〕
・休業災害 1件、不休業災害 1件

※5ヵ月連続休業災害、不休業災害ゼロ達成
（2014年11月～2015年3月）

東洋アルミ千葉株式会社 体感教育

ベテランから新人まで安全意識の大切さを体験的に習得する「危険体感訓練」を東洋アルミ千葉（株）で実施しました。

八尾製造所で作成した体感訓練機材（挟まれ巻き込まれ、電気による火災、ヘルメットへの衝撃、安全帯着用での吊り下げなど）を運搬し、2014年6月に八尾保全係3名がトレーナー育成教育を実施しました。そして翌7月に育成されたトレーナーにより全従業員へ体感教育を実施しました。



安全帯吊り上げの体感

感電・配線焼けの体感

トーヤル テクノフロンティア 株式会社 異常事態想定訓練

トーヤル テクノフロンティア（株）はさまざまな災害事故を想定した異常事態想定訓練を毎月実施しています。

各種訓練のシナリオをつくる際には、薬品の種類・物性に応じた除害活動、人命救助、災害用機材など、細かく現場と内容を検討し作成しています。

万が一薬品の漏えいや、設備の故障などのトラブルが発生しても、最悪の事態を未然に防止するための適切な措置を行う力を持てるようにするためです。

そのためグループ毎に「行動」を体得し、「判断力」を養成できるように反復した訓練を行います。

また、都度出てきた問題点が迅速に解決できるしくみづくりを心がけ、訓練後は参加者全員で意見交換を行い、訓練内容の有効性を確認しています。



負傷者の担架による搬送訓練

保護マスクを着用しての訓練風景

新庄製造所 安全講習会

2015年1月から2月にかけて計4回、安全講習会を実施しました。

講師は日野製造所で指導していただいている、ひつじクリニックの守田衛生コンサルタントです。

テーマはヒューマンエラーに焦点を当て、職場での事例を入れて質疑応答を交えながら実施しました。思い込みや勘違いなど、人はミスを犯すものであることを、実際に参加者が体験することで思わず納得させられる場面が多々ありました。

今後は各事業所において、事業所特有の安全の悩みを反映させた内容で、展開していく予定です。

安全事務局 酒井 均

いかに人は関心を払っていないと記憶していないか、を分かりやすく実例を挙げて解説していただき、講習を受けたほとんどの従業員から好評でヒューマンエラーの予防策を職場に持ち帰るとの感想が大勢を占めていました。



Global Safety Workshop 2014へ参加

アメリカとヨーロッパのアルミ協会主催のパウダーペーストに関する安全国際会議へ参加しました。この会議は世界のアルミペーストやアルミパウダーを製造する同業各社が事故事例などを持ち寄り、情報を共有することで事故を未然に防ごうとする目的で2年に1回開催されています。

今回は全部で12カ国の約60名が参加しました。この中で得られた安全に関する情報を東洋アルミグループ内関連部門で共有し、改善することで、アルミペーストやアルミパウダー製造の安全性向上に役立てていきます。



会議場風景

明るく健康な職場作り (AKS) 活動

明るく健康な毎日をサポートします！ 私たち各事業所のA（明るく）K（健康な）S（職場作り）ワークチームは事務局と連携し、東洋アルミグループの従業員が明るく、健康でいきいきと働くことができる職場実現のための活動を展開しています。

第3回 AKS アンケート結果に基づく改善活動

明るく健康な職場作りを進めていくための職場環境の現状調査として、3回目（過去2008年、2010年に実施）のアンケートを2013年10月に実施しました。総計で約2000名が回答し、回収率が98.9%となり過去2回を大きく超えることができました。東洋アルミ千葉（株）と御所工場については初めてのアンケートとなり、調査時点での現状が把握できたので、このデータを元にして職場環境の改善を進めています。このアンケート結果の報告を受け、2014年6月に東洋アルミグループ各社で対策検討会を開催し、詳しく掘り下げた検討がなされました。そして7月24日の役員を対象とした社内の会議でそれぞれ対策が報告されました。また、一般従業員の方々にもアンケート結果とその対策について説明会が実施されています。今後対策が実施された結果についてフォローしていきます。

大阪オフィス 健康管理講演会を開催しました！

2014年10月2日に全国労働安全衛生週間行事として、健康管理講演会を大阪オフィスにて開催しました。講師として（社）中高年齢雇用福祉協会の黒田和子先生をお招きして講演いただきました。『こころと身体の健康管理～健康は自分でつくるもの～』をテーマに、①栄養②運動③休養④ストレス管理の4つのポイントでお話をいただきました。特に運動面では、日常でもできるストレッチをみんなで実践し、普段動かせない筋肉を使ったのか、楽しい呻き声があちこちから聞こえてきました。最後に講師からのメッセージとして『健康の一步はつじつま合わせをすること！』つまり、飲み過ぎ・食べ過ぎもたまにはよし！但し次の日は節制・運動するなど、ストレスを溜め込まないよう楽しい毎日が送れるようにしましょう！とのことでした。今回、無理なく健康を気遣うことの大切さを認識した講演になったかと思えます。



講演会風景

東洋アルミ千葉株式会社 労使共催行事

2014年7月29日晴天の中、労使共催行事として「横浜中華街日帰りバス旅行」を行いました。バスに乗り込みJR千葉駅を出発し、一路中華街へと向かいました。楽しみにしていた中華料理に舌鼓を打ちながら、上司も部下

も関係なく無礼講、大いに盛り上がった昼食となりました。食後は活気溢れる中華街へ繰り出し、中華街名門制覇にチャレンジする人、お土産を買ったりしている人など、行き交う先々ですれ違ふのは会社の人という、不思議な気分での中華街散策となりました。散策後はマリーナージュ号で横浜港をめぐり、某映画のワンシーンを思い浮かべながらハリウッドスター気分を味わいました。帰路はアクアラインを通り、途中休憩の「海ほたる」では、のんびりと東京湾を行き交う船を眺めました。横浜と千葉の海風に吹かれ心も身体もリフレッシュできた、従業員一同大満足の一日となりました。



中華料理の昼食風景

日野製造所 WALKING RALLY 2014年度 実施報告

2014年度の衛生イベント企画として、春と秋の2回にわたって各3ヵ月間、ウォーキングラリーを実施しました。日野製造所で初の試みということで、果たしてどんな反応が起こるのか、楽しみ半分、不安半分でした。そのなかで最も強く実感したことは、ウォーキングに関する話題があちこちで聞かれるようになったことです。「歩数計を持ってみたら、自分が意外とよく歩いているのに気がついた」「この前の休みに京都に行って2万歩も歩いた」「今月はあんまり歩いていないなあ…」「買い物に行ったらよく歩くわ～」「歩数計を持つのがクセになった」など。「歩く」ことが、じわじわと日野製造所の従業員の意識に浸透してきているように思いました。また、この企画をきっかけにして、イベント後も歩くことが習慣になったという方も数名おられますので、やってみて本当に良かったと思っています。

イベント終了後のアンケートにおいて、今後も引き続きウォーキングのイベントを継続してほしいとの声がありましたので、これからもウォーキングのきっかけづくりの場をさまざまな形で提案していきたいと考えています。

ウォーキングラリーで歩数が設定目標の80%以上を達成した参加者には記念品が、上位の方には表彰状が授与されました。



受賞者集合写真

環境への取組み

東洋アルミグループは、「地球環境と調和した経営活動を通じて社会に貢献する」という認識の下、企業活動のあらゆる面で地球環境保全を重要課題と位置付け、持続可能な社会の構築に向けた取組みを継続して推進します。

方針

1. 省エネルギー、省資源、廃棄物減量化、資源リサイクルを推進する。
2. 製品の設計・資材の調達・生産・流通・販売・使用・廃棄に至る各段階で環境に配慮した取組みを行う。
3. CO₂、フロン、その他有害物質など地球環境に負荷を与える物質の低減に取組む。
4. 環境に関する法律、条例、協定を遵守し、行政の施策に協力し、国際的な協調に努める。海外事業展開にあたっては、投資先国の環境上の基準を十分に把握し、環境に配慮した取組みを行う。
5. 環境保全に関する社員教育を実施し、社員一人ひとりが地球環境問題の重要性を自覚して保全活動に努めるようにする。

環境目標

私たちは次のような環境目標を設定し、実現に向けて取り組んでいます。

1. **省エネルギー** 原単位で毎年1%以上の改善（電気、ガス、重油などの使用量削減）
2. **産業廃棄物** 原単位で毎年2%以上の削減（製造工程から出る廃棄物の削減）

環境調和推進策

上記の目標以外にも、次のような環境を大切にしている活動を展開しています。

東洋アルミニウム（株）

[箔事業本部]

1. 発生するスクラップの再生地金やペースト原料としての活用
2. 圧延油回収量の増加、再利用
3. 箔加工工程で発生する溶剤排気の大気放出量削減
4. 環境貢献製品による社会貢献（リチウムイオン電池用部材、トータルロータス®など）
5. 改善活動でエネルギー使用量削減
グループ会社との情報共有により推進（東海アルミ箔（株）、東洋アルミ千葉（株）など）

[パウダー・ペースト事業本部]

1. アルミペーストの原料に、アルミ箔残材の有効利用
2. 工程内で回収したアルミ粉の再利用

3. 塗料用としての水性着色アルミの開発
4. 急冷アルミ合金粉末製品を用いた車両用部品の軽量化による省エネへの貢献
5. エネルギーマネジメント活動による省エネの推進（製造所使用電力の削減）

[ソーラー開発部]

1. 太陽電池の効率を上げる裏面電極用インキの開発・生産・販売
2. 太陽電池を支えるバックシートの開発・生産・販売
3. 生産工程で発生する溶剤排気の大気放出量削減

東海アルミ箔（株）

1. 触媒式から蓄熱式への脱臭装置更新による、エネルギー使用量の削減
2. 圧延機補機モーターインバーター化による電気使用量の削減
3. 改善活動推進による労働生産性30%アップでエネルギーの削減
4. 加工歩留向上によるトルエン使用量の削減

東洋アルミ千葉（株）

1. CIP (CHIBA INNOVATION PLAN) 活動推進による歩留向上、アルミ屑低減
2. CIP 活動推進による生産性向上、エネルギー原単位の低減
3. 圧延油回収および蒸留再生装置設置
4. 溶剤蒸留装置設置
5. トランスの更新

東洋アルミエコプロダクツ（株）

1. 再生材（アルミ・紙・プラスチックなど）を使用した製品の生産・販売
2. 使用することで省エネ効果のある製品の開発・生産・販売（節電シート他）
3. 森林認証機関により審査された木材を使った紙製品の開発・生産・販売
4. 生産性アップによるエネルギー削減（休憩時間の吹き飛ばしエアー OFF など）

グループ全体

1. ペーパーレス化推進による紙使用量の削減
2. 経済産業省からの省エネルギー協力要請への積極的な対応

省エネルギーの推進

東洋アルミニウム(株)では、エネルギーの使用量を原単位^{*1}で毎年1%以上の改善を目標としています。

2014年度は約7%増加し、目標を達成することが出来ませんでした。この要因は、原単位を算出するための分母である国内の売上金額が減少したためです。国内の売上金額が減少した理由は、ソーラー事業の海外移管によるものです。この影響額を差し引くと、エネルギー使用量売上高原単位は4%改善しています。(グラフ赤色点線部分)

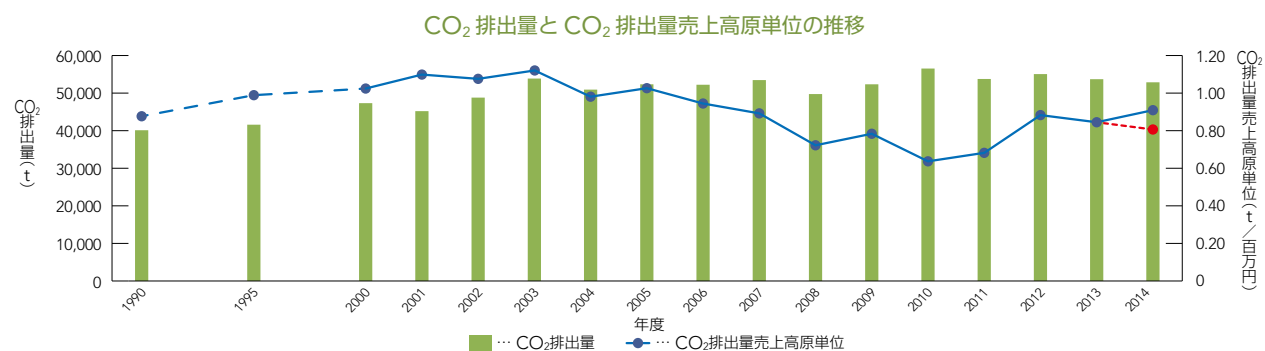
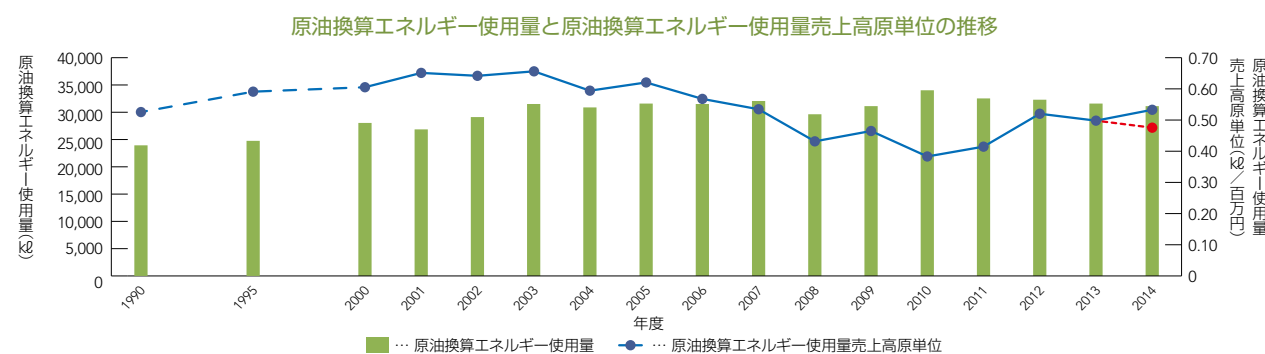
また、CO₂排出量売上高原単位も、分母が国内の売上金額のため同じ動向を示しました。

各事業所において、改善活動や省エネルギーにつながる設備の改善や新設を引き続き実施することで、省エネルギーに努めていきます。

製造に使われる総エネルギー使用量(原油換算^{*2})とその原単位、およびCO₂排出量とその原単位は以下のように推移しています。

原単位^{*1}: 一定の生産量を製造するのに必要なエネルギーなどの量。原単位が減少すれば効率的に生産していることとなります。生産量として重量を用いるか、面積を用いるか、標準換算した生産量を用いるか、売上金額を用いるかなどは、各事業所により異なりますが、東洋アルミニウム(株)全社で算出する場合は売上金額を生産量としています。

原油換算^{*2}: CO₂の換算も含めて、換算係数は年度で変更せずに単一のものを使用しています。



産業廃棄物の削減

東洋アルミニウム(株)の産業廃棄物削減の目標は原単位で毎年2%以上の削減です。

2014年度は約4%増加し、目標を達成することが出来ませんでした。この要因は、先に示したエネルギー使用量売上高原単位やCO₂排出量売上高原単位と同様で、原単位を算出する

ための分母である国内の売上金額が減少したためです。ソーラー事業の海外移管の影響を差し引くと、7%の改善になります。(グラフ赤色点線部分)

引き続き、歩留まり向上の取組みや、インキの再利用などを実施し、今後とも廃棄物の発生抑制に努めます。

東洋アルミニウム(株)の生産活動にともなう廃棄物重量^{*3}と、その原単位の推移は以下のようになっています。

廃棄物重量^{*3}: 有価物として排出しているものも含みます。



東洋アルミエコープロダクツ株式会社 環境配慮商品開発への積極的な取組み

東洋アルミエコープロダクツ(株)は、大口の浅型、楕円型紙コップやECウェア(縁巻き紙容器)など差別化された環境にやさしい容器の普及活動を推進しています。

2014年10月東京都千代田区の学士会館で開催された、持続可能な森林管理を推進する国際的な森林認証機関であるPEFC(Programme For the Endorsement of the Forest Certification Schemes)のアジア地区での活動10周年記念フォーラムにおいて、私たちの長年に亘る環境配慮商品の開発を始めとしたさまざまな取組みや環境に対する正しい理解が評価され、感謝状を授与されました。

フォーラムでは、高円宮妃殿下のご出席も賜り、環境問題について参加者間で広く意見交換が行われました。

私たちは責任ある森林管理の観点から、森林を適切に管理する活動に賛同し、そのような森林から生産された木材を使って製品をつくり、流通させ、消費者にお届けしていくなど、今後も森林認証制度の趣旨に沿った諸活動を展開していきます。



国際的な森林認証機関であるPEFCより表彰授与

群馬製造所 印刷機の省エネ化システム

群馬製造所の生産設備の中でも、とりわけエネルギー使用量の多い多色印刷機を対象として省エネルギーの取組みを実施しました。

現状調査を行った結果、この多色印刷機では、生産性を上げるために段取り換えなどの機械停止中もファン運転およびガス燃焼を続けていることが判明しました。これを改善する目的で、2015年1月より「省エネ化システム」を導入しました。

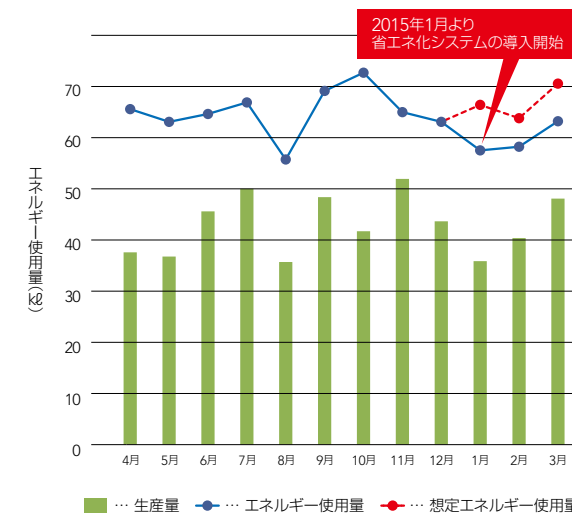
「省エネ化システム」とは、以下に示す2つの機能を持つシステムで、主に自動制御で運用され、不要な稼働時間を減らすことが可能です。

1. 生産開始予定時間に、乾燥部の温度が設定値に到達できるよう、ファン運転およびガス燃焼を制御する機能(生産性が下がることが無いことを保証すること)
2. 生産・非生産の状況からファンの出力を自動調整する機能

この「省エネ化システム」の導入により電力とガスの使用量を大きく削減することができました。年間で約82kWhのエネルギー使用量(原油換算)の削減、約160t-CO₂のCO₂の削減効果が見込めます。

今後は、他の加工機械へ横展開することにより、更なる省エネルギー化を進めていきます。

2014年度エネルギー使用量(原油換算)



エンジニアリングセンター 木村 太郎

いかに不要な稼働時間を減らすかについて考え、取り組んできました。結果として高い省エネ実績が得られたのは、現場オペレータとの協力関係を築けてきたことが大きな要因だと思います。今年から入社二年目となり多くの業務に関わっていく中でも、この経験を大事にしていきたいと思っています。



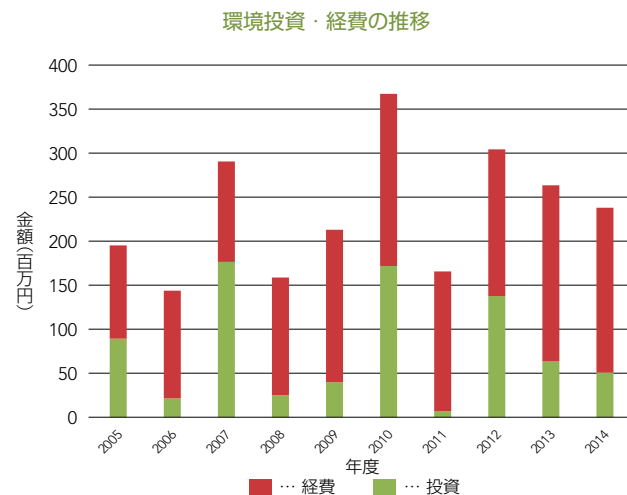
環境会計

東洋アルミニウム(株)では環境保全の投資・経費の推移を環境会計として集計しています。

投資は省エネ機器や廃棄物処理装置、溶剤回収装置などで、経費は環境指標の測定費用、焼却炉などの運転費用、産業廃棄物処理費用などを含みます。

2014年度の投資額は約5,200万円で、油水分離槽の新設や脱臭炉の改善、更新などを行い、環境負荷を減らしたり、省エネルギー・省資源の活動などに活かしりました。

2015年度も引き続き、環境負荷を少しでも軽減できるような投資を進めていきます。



環境マネジメントシステム組織体制

東洋アルミニウム(株)では経営会議の下に役員および関連事業部長で構成される「環境調和推進委員会」を設置し、環境基本方針の具体化と実行に努めています。

八尾製造所と群馬製造所、新庄製造所(御所工場含む)、日野製造所、東海アルミ箔(株)、東洋アルミエコープロダクツ(株)滋賀工場には環境関連の委員会を設置し、またその他の事業所では、環境会議などを実施し、製造サイトでの環境基本方針の具体化と実行に努めています。

全体の組織図を以下に示します。

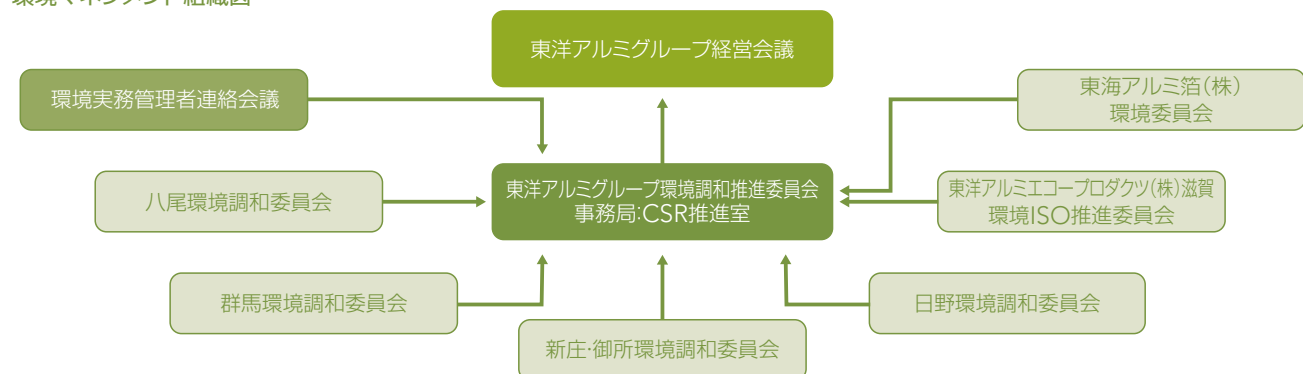
ISO14001 マネジメントシステム 認証取得・審査登録状況

ISO14001 認証取得、審査登録状況は下表の通りです。平野工場では2015年度認証取得に向けて活動を開始しています。

会社名・事業所名	認証取得・審査登録時期
東洋アルミニウム株式会社 八尾製造所	2001年 1月
東洋アルミニウム株式会社 群馬製造所	2001年 8月
東海東洋アルミ販売株式会社	2001年 11月
東洋アルミエコープロダクツ株式会社	2003年 3月
イー・エル・ビー株式会社	2003年 3月
東洋アルミニウム株式会社 新庄製造所	2003年 4月
東洋アルミニウム株式会社 日野製造所	2004年 3月
湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司	2007年 5月
東海アルミ箔株式会社	2007年 6月
東洋アルミ千葉株式会社	2007年 7月
トータルテクノフロンティア株式会社	2008年 2月
株式会社東海アルミ箔北海道	2008年 10月
肇慶東洋鋁業有限公司	2010年 10月
トータルヨーロッパ社	2012年 7月

※会社名・事業所名は、2015年4月時点の名称です。

環境マネジメント組織図



東洋アルミグループ環境監査

2013年度より、グループ環境監査を開始しています。2014年度は、東海アルミ箔(株)茅ヶ崎工場、矢畑工場、そしてトータルテクノフロンティア(株)の3工場にて環境監査を実施しました。

相互のサイトを監査することにより、グループ会社の環境リスクを軽減し、また他のサイトで実施されていることを参考にすることで、省エネルギー活動や産業廃棄物削減のレベルアップを図ります。

環境に関わる事故・緊急対応

環境に関わる事故およびそれに対する緊急対応については、対応のしくみなどを構築して運用しています。

2014年度は対象となる事故などはありませんでした。

2015年5月11日、新庄製造所において油が製造所の外に流出するという環境事故を発生させてしまいました。緊急対策をすぐに実施し、また恒久対策にも取り組んでいます。今後同じような事故を起さないよう、真摯に対策に取り組んでいきます。

環境に関する規制遵守の状況

東洋アルミグループでは環境に関する法律、条例、協定を遵守することを基本方針で決めています。

今回の報告書にて特に以下の内容を報告します。

- エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)届出
- 容器包装に係る分別収集および再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)による再商品化実施委託料支払
- 改正水質汚濁防止法(水濁法)の対応

省エネ法届出

省エネ法では、エネルギー使用量が一定量を超える事業所はエネルギー管理指定工場に指定され、毎年定期報告書や中長期計画書の提出が義務付けられています。

東洋アルミグループでは、東洋アルミニウム(株)、東海アルミ箔(株)、東洋アルミ千葉(株)が対象になります。

2014年度から法律が改正され、今までの「エネルギー消費原単位」の指標に加え、新たに「電気需要平準化評価原単位」の指標も管理しなければならなくなりました。これは、東日本大震災後、逼迫した電気需給のバランスを改善するために改正されたもので、東洋アルミグループも、この趣旨を理解し、電気の需給バランスを考え日々企業活動を行いました。

それぞれ定期報告書と中長期計画書を提出し、大きな指摘なく受理されました。

容器包装リサイクル法による再商品化委託料支払

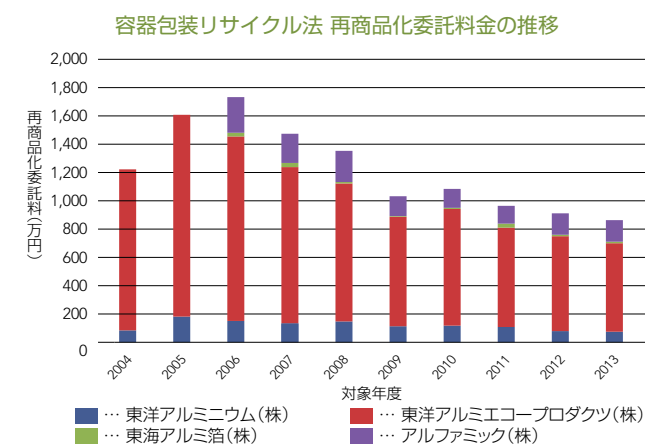
容器包装リサイクル法では、容器包装の製造者と利用者による再商品化(リサイクル)実施委託料と拠出委託料(企業から市町村への資金拠出)の支払いを義務付けています。

紙製とプラスチック製の容器包装について東洋アルミニウム(株)と東海アルミ箔(株)が製造者として、東洋アルミエコープロダクツ(株)とアルファミック(株)が製造者と利用者として再商品化実施委託料を財団法人日本容器包装リサイクル協会に支払っています。

過去10年間の再商品化実施委託料金の申請金額の推移を以下に示します。東海アルミ箔(株)とアルファミック(株)の支

払額は2006年度から表示しています。

東洋アルミグループでは、2015年には、2013年度分の約870万円の再商品化実施委託料金に、2012年度分の拠出委託料金と、それぞれ前年の精算金を相殺した金額を支払います。



改正水濁法の対応

改正水濁法は2012年6月に施行されました。改正内容は、液状の有害物質を貯蔵する施設に届出の規定が設けられたこと、基準遵守義務が創設されたこと、基準遵守義務違反時の改善命令が出されること、定期点検の義務などが挙げられます。特に、基準遵守義務が創設されたことにより、2015年5月までに対象となる施設の構造規制基準を既存施設の場合はB基準*以上に、新規施設の場合はA基準*にしなければなりません。

東洋アルミグループでは、2014年度中に全ての対象施設の構造規制基準を規制内の基準にしました。

*環境省「地下水汚染の未然防止のための構造と点検管理に関するマニュアル」参照

コンプライアンスへの取り組み

東洋アルミグループは、法令および社会的規範を遵守し、良き企業市民として社会的責任を果たすことにより、健全な企業活動を維持向上できる企業風土を構築します。

基本姿勢

東洋アルミグループのコンプライアンス活動の基本姿勢は、CSR（企業の社会的責任）の観点から、法令および社会的規範を遵守し、健全な企業活動を維持向上できる企業風土を構築することです。

コンプライアンス体制

東洋アルミグループのコンプライアンス体制は、2003年12月よりコンプライアンス委員会を活動母体としてスタートしました。

現在、全社コンプライアンス委員会は年2回開催されており、そこで東洋アルミグループ各社および各事業所といった活動ユニット単位でのコンプライアンス活動の実績が報告されるとともに意見交換や情報共有も行っています。

具体的には、ユニット単位で洗い出して評価された法的リスクの課題が、どの程度改善されたかの進捗報告と職場単位で開催されているコンプライアンス・ミーティングの実施状況について報告が行われています。

なお、各ユニットのコンプライアンス活動は、ユニット毎に設置されたコンプライアンス推進グループがリーダーを中心に、教育・啓蒙・モニタリングを行っています。

併せて、内部通報制度である「コンプライアンス相談ライン」の制度趣旨についてアナウンスを継続して行っています。

コンプライアンス相談ライン

前述のとおり、東洋アルミグループでは内部通報制度として『コンプライアンス相談ライン』を設置し2006年より運用しており、その機能を果たしています。



コンプライアンス教育・啓蒙

東洋アルミグループでは、管理職以上の全役職員に対して毎年、コンプライアンス誓約書の提出を求めています。

そして独禁法や下請法に関する力量テストやフォローアップの講演会を定期的実施し、企業活動における当該法的リスクの教育・啓蒙を行っています。

また2014年度下期より、各種コンプライアンス活動の進捗管理とこれらの活動について推進グループ内での情報共有を目的として、コンプライアンス推進計画を東洋アルミグループ各事業所毎に作成することとしました。



独禁法講習会

内部監査室 稲藤 浩子

2014年度独禁法・下請法の力量テストに設けた自由記入欄には、日常の業務における疑問や質問の他、知識をつけたい、勉強会をしてほしいなど、前向きな意見が多数寄せられ、グループ全体の意識・知識レベルの向上が感じられるようになってきました。

今後も、法体制の動向に対応できる情報の取得・知識の共有に努め、「知らなかった」ことで法令違反をしてしまうことのない体制づくり、啓蒙活動を進めていきます。

今後の課題

前述のコンプライアンス推進計画策定を継続することで、コンプライアンス活動のPDCAサイクルを回し、東洋アルミグループのコンプライアンス活動の更なる底上げを図りたいと考えています。

また、特に近年はハラスメントに係る相談事案が多いことから、相談ライン担当者を養成することや外部専門家と連携することでコンプライアンス相談ライン窓口の多様化を実現し、内部通報制度の機能強化をしたいと考えています。

コンプライアンス活動の底上げ

Plan :
コンプライアンス推進計画の策定
Do :
計画に基づくコンプライアンス活動
Check :
東洋アルミグループ事業所毎のコンプライアンス確認会議
Act :
全社コンプライアンス委員会による提言・啓蒙



安全保障貿易管理

東洋アルミグループでは、重点対策リスクのひとつである「安全保障貿易管理」に、より厳格に対応するため、体制を強化しました。輸出許可の要否を判断するための貨物・技術の該非判定と厳格な取引審査、従業員への教育、東洋アルミグループ各社に対する指導・支援などを実施しています。

輸出審査委員会、輸出審査小委員会の役割をより明確化し、国際的な平和および安全の維持を目的とする安全保障貿易管理を適切に実施するための活動を行っています。輸出審査委員会と輸出審査小委員会の役割は、以下の通りです。

【輸出審査委員会】

1. 方針の変更、決定、承認
2. 関係部門などの長に対する報告などの要求、調査の実施、または改善措置などの命令

【輸出審査小委員会】

1. 安全保障輸出管理規程の制定、改廃
2. 運用手続（細則）の制定、改廃
3. 輸出管理手続き業務の推進
4. 困難な該非判定および取引の審査の審議
5. 全社管理業務の統括および全社徹底事項の指示、連絡、要請など
6. 教育
7. 子会社および関連会社などの指導

2015年3月19日、20日の両日には安全保障貿易の説明会を実施し、社内教育の場としました。東洋アルミのグループ会社で貿易業務に関連する担当者にも出席してもらい、理解を深めてもらいました。

知らないうちに法を犯すことがないように、今後とも活発な活動を実施していきます。

情報セキュリティへの取り組み

東洋アルミグループは、お客さまの個人情報、技術情報などの情報をあらゆる脅威から保護し、お客さまと社会の信頼に応えるため2006年4月より情報セキュリティ運営委員会を発足させ、情報セキュリティマネジメントに取り組んでいます。

「情報セキュリティ事故0（ゼロ）」を情報セキュリティ基本方針に掲げ、セキュリティ環境の強化を図り、企業の社会的責任に取り組んでいます。

現在、東洋アルミグループ内主要各社においてISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム国際規格）を認証取得しています（一覧参照）。

2013年10月にISO27001の規格が大幅に改訂されたのにも関わらず移行審査の計画を立て、2014年度から順に新規格（ISO/IEC27001:2013）の認証取得を開始しました。認証未取得のグループ各社も順次取得を目指します。

東洋アルミ千葉（株）を2015年度の審査で拡大登録するためにマネジメントシステムの構築に向け活動を開始しました。この登録が完了すればさらに広範囲での情報セキュリティマネジメントシステムにより、お客さまからお預かりした大切な情報を含む機密情報の流出を防ぐことで、より安心して取引いただける体制づくりを進めていきます。

ISO27001 マネジメントシステム 認証取得・審査登録状況

会社名	事業所名	認証取得・審査登録時期
東洋アルミニウム株式会社	大阪オフィス、東京オフィス、八尾製造所（一部）、新庄製造所（一部）	2007年 3月
東洋アルミニウム株式会社	群馬製造所、日野製造所、八尾製造所、新庄製造所（生産現場は除く）	2007年 11月
東洋アルミエコープロダクツ株式会社	全事業所（生産現場は除く）	2008年 9月
東海東洋アルミ販売株式会社	全事業所	2008年 9月
東海アルミ箔株式会社	全事業所（生産現場は除く）	2008年 10月
東洋アルミニウム株式会社	御所工場、平野工場（生産現場は除く）	2013年 10月

品質保証への取組み

東洋アルミグループは社会的規範や企業倫理に適合した企業活動を通じて「安心してお使いいただける製品、お客さまの満足を得られる製品、かつ、社会に有用な製品およびサービスの提供」を目指し、より多くのお客さまにご使用いただくことによって、社会経済の発展に貢献していきます。

事業所相互品質監査

異なる製品・製造工程を持つ事業所同士が異なった観点から監査をしようとして、グループ全体の品質保証体制のレベルアップとレベルの平準化を進めています。2014年度も引き続き主要事業所の監査を実施し、品質保証体制に問題が無いことを確認しました。

新製品品質審査会議

消費者の安全性を脅かすような大きな問題を発生させないため、新製品・新技術を世に送り出す前および4M変更の際に、品質保証の観点から総合的にチェックする品質審査会議を行っています。

最近の対象製品・技術（13件実施）

- 箔製品関連：粉末積層箔（2回目）、プッシュガード® 他2件
- 日用品関連：発電窓シート、スマヒ（スマートヒーター）
- パウダー・ペースト関連：粉末積層箔用インキ、Cosmicolor® 量産移行 他5件

ISO9001 マネジメントシステム 認証取得・審査登録状況

会社名・事業所名	認証取得・審査登録時期
トータルヨーロッパ社	1995年 6月
東洋アルミニウム株式会社 八尾製造所	1996年 10月
東洋アルミニウム株式会社 群馬製造所	1996年 10月
東洋アルミニウム株式会社 新庄製造所	1997年 9月
東洋アルミニウム株式会社 日野製造所	1998年 3月
東海アルミ箔株式会社 蒲原工場	1998年 4月
東海アルミ箔株式会社 茅ヶ崎工場	1998年 4月
東海アルミ箔株式会社 矢畑工場	1998年 4月
株式会社東海アルミ箔北海道	1998年 4月
東洋アルミエコープロダクツ株式会社 滋賀工場	1998年 8月
東洋アルミ千葉株式会社	1999年 9月
トータル アメリカ社	2000年 3月
東洋アルミニウム株式会社 御所工場	2003年 9月
東海東洋アルミ販売株式会社	2004年 1月
湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司	2005年 8月
東洋アルミニウム株式会社 平野工場	2007年 2月
トータル テクノフロンティア株式会社	2008年 2月
肇慶東洋鋁業有限公司	2010年 8月

※会社名・事業所名は、2015年4月時点の名称です。

消費者対応 (東洋アルミエコープロダクツ株式会社)

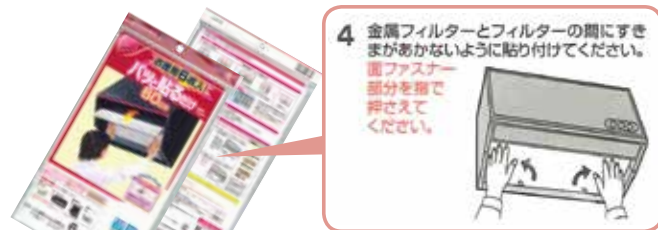
東洋アルミグループ各社は、その殆どが原材料メーカーという位置づけですが、東洋アルミエコープロダクツ(株)は流通の川下である最終消費材の製造・販売を行うグループ内では異質の企業です。

直接の顧客は流通業界ですが、そのすぐ後ろは消費者です。私たちに常に消費者の嗜好・行動様式を意識することが求められており、消費者との対話を重ねることなしに、自身の成長もあり得ないと考えています。

商品のパッケージを通じて万全の品質を伝えます！

東洋アルミエコープロダクツ(株)では、プライベートブランドを含め1,000を超えるアイテムを扱っています。

私たちは商品を出荷したら終わりではありません。商品が店頭で並び、お客さまが買い求めになった後のことも考え、パッケージデザインには細心の注意を払っています。



パッケージ(表) パッケージ(裏)



マーケティング部 伊藤文

パッケージは、店頭でのお客さまと商品の出会いの場です。パッケージデザインをつくる際に私たちが最も注意していることは、他の商品と比べて売り場で目を引くものになっているかも勿論大事なポイントですが、その前に商品の特徴がお客さまに正しく伝わるかどうかということです。

商品の使用方法や使用上の注意などの他にもお伝えしなくてはならないことが沢山あるため、どうしても情報を詰め込みすぎて読みにくく分かりにくいパッケージとなってしまうがちです。何度も校正を繰り返す中で、なるべく文字の数を減らし、文章の表現は統一して読みやすいようにするとともに、使用方法などはイラスト・図などを交えるなどしてお客さまが迷うことなく、安心してご使用いただけるよう工夫しています。



消費者の皆さまからの声に直接耳を傾けます！

私たちは、どうすればもっと消費者のお役に立つことが出来るかを考え、お客さま相談室(フリーダイヤル)を設け、専属スタッフを配して日々さまざまな問い合わせや要望、苦情などにお答えしています。お客さまから厳しいお叱りを受けることもありますが、より良い商品づくりに活かすための貴重な「声」として受け止めさせていただき、問題点の改善や新製品の開発に役立てています。

ある日のお客さま相談室

お客さま「東洋アルミの〇〇という商品はずっと使っていたのに、近くに売っている店がなくなりました。どこに売っているのか教えて欲しいのですが…。」

当社「かしこまりました。お調べして、折り返しご案内します。」
…… 5分後 ……

当社「〇〇市のホームセンター△△に本日、在庫が15個あります。」

お客さま「教えていただいてありがとうございます！」
…… 翌日 ……

お客さま「今行ってきました！ありがとうございました！」

お客さま相談室 山森由美子

お叱りを受けることもしばしばありますが、きちんと対応したことで後日逆に感謝のお手紙を頂戴したこともあります。

大変ですが、心が暖くなる瞬間です。説明書の表現が分かりづらい、文字が小さい…お客さまの生の声を真摯に受け止め担当部署に伝えることで、明日の商品化に活かすことが出来ればと考え、頑張っています。



オンラインショップの開設

前述の通りお客さま相談室には、「欲しい商品があるのに近くに販売店がない…」という声が度々寄せられます。それらの声にお応えするため、ホームページ経由で手軽に商品を購入できるオンラインショップをオープン、さらには季節毎の催事コーナーやアウトレットコーナーなども充実させることで一層のサービス向上に努めています。



東洋アルミエコープロダクツ(株)直営オンラインショップ CUQ 楽天市場店

感謝の気持ちを込めて

商品についている「お楽しみマーク」を集めて応募すると、厳選温泉宿へのご招待からギフトカードまで、素敵なプレゼントが当たる消費者キャンペーンを20年以上実施しています。

また、季刊情報誌「motto」を発行し、食品会社とのコラボによる当社商品を使った簡単レシピや、生活情報のワンポイントアドバイス、購入されたお客さまから寄せられた便利な使い方の紹介などの記事を掲載することで、マルチ方向のコミュニケーション紙として、たくさんの東洋アルミファンの皆さまにご愛読いただいています。

(情報誌「motto」はお楽しみキャンペーンに応募された方と商品封入アンケートにお答えいただいた方全員にお送りしています。)



東洋アルミエコープロダクツ(株)の商品「リノバージョンシリーズ」によって明るく演出されたキッチン

地域社会貢献活動

地域の文化や習慣を尊重し、よき企業市民として社会貢献活動を推進し、地域社会の発展に寄与します。

新庄製造所

葛城市へクロマシャイン®*特別塗装の公用車寄贈

2014年5月29日に新庄製造所がある葛城市に当社の新製品であるクロマシャイン®を特別塗装したホンダのオデッセイを公用車として寄贈する式典があり、葛城市からは山手市長など、当社からは今須会長、楠井事業本部長などが出席しました。また、塗装会社のマスコットガールであるNMB48のみるきこと渡辺美優紀(当時、現在は葛城市の観光大使)も来場し、花を添え、華やかな式典となりました。

当日は晴天に恵まれ、公用車に特別塗装されたクロマシャイン®が色鮮やかで、また、見る角度で変化し、その特徴が実感できるものとなりました。多数の報道陣も詰め掛け、式典前から塗装の鮮やかさに目を奪われ、大いに興味を抱いたのか、寄贈式後の記者会見にて多数の質問が寄せられました。

8月には、山手市長が交流のある茅ヶ崎市の行事に参加するために、この特別塗装した公用車で出かけられ、関東にもお披露目をしました。

奈良県の葛城市近辺にお越しになられた際は、もしかすると実際に走っているところを見る機会があるかもしれません。そのときには、その色鮮やかさに驚かれることと思います。



クロマシャイン®特別塗装の寄贈した公用車

クロマシャイン®*：見る角度により色が変わるアルミニウム顔料

八尾製造所、新庄製造所 音楽同好会「シルバーサウンズ」 イベント出演にて地域とのつながりの輪を広げる

シルバーサウンズは、東洋アルミニウム(株)に勤めるメンバーを中心としたフルバンドジャズ楽団です。

2014年度は、新庄製造所がある奈良県と日野製造所がある滋賀県で開催された下記のイベントに出演しました。

- 東日本大震災義援チャリティーパザー
〔6月15日(日)・葛城市中央公民館にて〕
 - わたむきの里まつり〔10月19日(日)・わたむきの里作業所にて〕
 - ゆめフェスタ in 葛城〔11月2日(日)・當麻寺境内にて〕
 - 街づくり@葛城〔3月15日(日)・奈良文化高校にて〕
- レパートリーは、スタンダードジャズはもちろん、民謡をジャズ風にアレンジした曲やラテンナンバーなど、幅広くチャレンジしています。イベントでは、多くの方に楽しんでいただけるよう、CMや映画音楽などに使われた曲からも選曲しています。

シルバーサウンズというバンド名は、アルミニウムがシルバー色をしていることから付けられました。名前のようにキラキラのサウンドを目指し、月1~2回集まって練習しています。

また、毎年秋には、奈良県葛城市當麻の「文見堂」ギャラリーにて、入場無料の定期演奏会を開催しており、地元の皆さまに楽しんでいただいています。



シルバーサウンズ

少年野球指導

奈良県のある地域で新しい少年野球チームに東洋アルミニウム(株)の従業員がコーチとして自主参加しています。

もともと、少年野球チームはありましたが子どもたちが集まらないといった理由でチームが解散になり、野球をやりたいとも出来ないといった子どもたちがいました。地元の元甲子園球児の方が元のチームの指導者と共同で新たなチームを立ち上げました。親御さんの飲物のお給仕や差し入れなどのお世話を軽減し、自分のことは自分ですることを基本に募集するとあっという間に15人ほど集まり、その父親達がコーチを引き受け本格的に活動を開始することになりました。

子どもたちは勿論、監督、コーチも悪戦苦闘を続ける中、しばらくすると地域に「少年野球が復活した。」という認識が芽生えたということを実感する出来事が起こるようになりました。練習に参加していないご家庭の方々も校庭に入って来て、練習を見学したり、いいプレーが飛び出すと拍手を送って下さったり、祖父母の方が小さい孫を心配そうに見つめたりなどさまざまです。

野球チームの存在が家族や地域の接着剤的な役割を果たし、家族間、そして地域間で会話やつながりを生み出していることは、非常に良いことであると感じています。

さらに、野球の練習や試合に参加するようになってから、他の保護者との交流が図られ、野球以外の地域活動がスムーズに進むようになっていきます。少年野球を通じて交流を深めていくことは、地域の絆を深めることにもつながっていると思います。



少年野球チーム

八尾製造所 環境アニメティッドやお

環境アニメティッドやおは、市民・事業者・教育機関・行政のパートナーシップにより、八尾の環境を良くしようと活動している環境パートナーシップ協議会です。

2014年は八尾製造所の工場見学が実施され環境アニメティッドやおのメンバー15名が来所されました。

八尾製造所の環境に配慮した取組みや、環境対応商品などを説明し、東洋アルミグループの環境意識を理解していただきました。

今後も事業者だけでなく、多くの分野の方々との交流を深め引き続き環境負荷軽減に取り組んでいきます。

トータル テクノフロンティア 株式会社 千の川河川視察(パトロールおよび清掃)

トータル テクノフロンティア(株)は茅ヶ崎市の「千の川」(1級河川相模川に合流)に沿って立地しています。

以前より省資源やリサイクルなど資源を有効に活用することを念頭とした活動はしていましたが、2014年に茅ヶ崎市役所(環境部 環境保全課)より「茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会」の活動をご紹介していただき、この活動に参加することとなりました。

活動の中で河川視察は年6回、工場排水などの適正な処理がされているのか、7項目の水質調査(水量・色・臭気・透視度・pH・水温・COD)や河岸の清掃を行い相模川水域の水質汚濁を防止する保全活動をしました。

また、2015年の夏には地元小中学生と河川生物相調査をする機会があり、川に生息する生き物の種類で水質を判定し、子供たちに河川浄化や環境保全の啓発を図る活動に参加する予定です。



河川視察作業

管理部 高橋 陽子

千の川河川視察活動で水質の調査や河川敷の清掃を通じ、河川の現状を把握する機会を得ることができました。

人間により自然環境が破壊されている現状の中で、私たちは壊れゆく生態系の復元や生物の保護、自然環境保全にもっと取り組まなければならないと反省しました。

この活動メンバーの方々に環境に対する意識を勉強させてもらっています。

御所工場 110番連絡所として防犯に協力しています

御所工場が立地する奈良県御所市秋津小学校区では、秋津防犯協会と小学校が協力して、校区内の企業・商店・民家において、「110番連絡所」の旗を道路から見える場所に掲げています。

「110番連絡所」とは、登下校時の児童の身に危険が迫った時などに逃げ込める場所として設置しているものです。昨年は校区内においても、「学童に対する声掛け事案」や、「通学時の不審車両の徘徊」などが発生しましたが、秋津小学校児童が犯罪に巻き込まれる事件は発生していません。

御所工場においても児童の身に危険が及ぶような場面には遭遇しておりませんが、工場横道路の水路に落ちた子供が御所工場に入ってきたことはありました。その時はすり傷の手当てをしてお風呂に入れてきれいにしてあげ、親に迎えに来てもらいました。

今後も秋津小学校区の子どもの安全を守ることに少しでも寄与できればと思っています。



「110番連絡所」掲揚の様子

八尾製造所 八尾市防災協力事業所認定



八尾市では阪神淡路大震災や東日本大震災の教訓から、大規模災害発生時に行政と地域が一体となった地域防災活動を展開するため、防災協力事業所認定制度を導入しています。協力の形態として、①応急復旧作業、②物資の輸送、③生活必需品の提供、④避難用の建物の提供、⑤地域と連携した消火協力、⑥その他の協力の、6つを指定しています。

八尾製造所では、電源喪失時に屋内外消火栓が使用不能になるリスクを避けるため、昨年「可搬式消火栓」を導入しました。その操作訓練を消防計画に加え消防署に提出したところ、市消防本部から「大規模災害発生時において地域と連携して自らの判断で消火協力活動が出来る事業所」として八尾製造所が推薦され、このたび八尾市防災協力事業所に認定されました。

これにより、大規模災害発生時に近隣で発生する火災に対して消火協力を行うことで地域に貢献していきます。

群馬製造所 伊勢崎市境進出企業連絡協議会 親善ソフトボール大会

2014年10月18日、境進出企業親善ソフトボール大会に群馬製造所が参加しました。伊勢崎市境進出企業連絡協議会は境地区の工業団地で操業している企業の集まりで、企業間の交流と連携を図り、交流事業を目的として毎年ソフトボール大会が行われています。今回の大会には14企業が参加しました。

今年は2つのリーグに分かれ各チーム2試合行い、各リーグ上位2チームが決勝、3位決定戦へ進む方式で開催されました。私たちは惜しくも準決勝・決勝へは進めず、結果はリーグ3位でした。開催当日は一日中快晴に恵まれ身体を思いきり動かし、心身ともにリフレッシュしました。また、試合後には他の企業の皆さまと群馬名物の「とりめし」を食べ懇親を深めました。



ソフトボール大会

群馬加工工場 仕上係 新田 健太郎

この大会に毎年参加することによりチーム同士の交流が生まれ、さらに地元の方々との懇親を深める場として根付いています。違う企業、他業種の垣根を越えてソフトボールという共通の競技を楽しむことにより、地域での共存、協力という意識を深めていくことで地域への貢献が出来れば良いと思います。



アルファミック株式会社

全国生協PB品『COOPくっつかないホイル』

日本生活協同組合連合会様よりアルファミック(株)が製造を受託している『COOPくっつかないホイル』は、フライパンなどに敷いて使っても、お料理が焦げ付かないシリコーン樹脂加工のアルミホイルです。

この製品において、日本生活協同組合連合会様と共有している理念は、「共働き家庭増加の中で、惣菜購入に頼らざるを得ない家庭でも、このホイルの普及によって、たった1品でも良い、大切な家族のために温かい料理を作れるように貢献したい」というもので、家庭用品における社会的役割をしっかりと持つ製品です。

東海アルミ箔(株)茅ヶ崎工場の技術力を信頼し、アルファミック(株)が「日本一の剥離性能を維持する」と明言して製造している製品ですが、ユーザーである全国組合員様からも、高い支持をいただいています。一例ですが、2014年末、生活協同組合コープこうべ様において、コープ商品総選挙(組合員によるPB品の投票)が実施され、宅配部門(チラシ事業の部門)において第1位に選ばれました。

「このように、組合員の高い支持がある製品を製造委託いただいている感謝とお礼をお伝えしたい」と、2015年3月10日、コープこうべ商品開発室/広田統括部長がアルファミック(株)へ来社され、表彰式を実施いただき、記念の楯も授与いただきました。

全国の多くの生協様に続いて、コープこうべ様でも、商品学習会を開催し、一層の普及をお考えです。

これからも、家庭用品の製造を通して、全国のご家庭のお役にたてる活動を続けていきます。



総選挙1位 表彰楯

東海アルミ箔株式会社 蒲原工場
日本赤十字社から金色有功章を受章

東海アルミ箔(株)蒲原工場では、長年にわたり献血による社会貢献を実施しています。

過去に受賞した銀色有功章に続き、この度、2014年7月22日に金色有功章(20年以上の貢献)を受章しました。

献血の現場では、少子高齢化や若年層の献血離れ現象により献血が減少する一方、その需要は増加の一途をたどっており、血液の確保が困難な状況となっています。



金色有功章を受章

そのような状況の中で少しでも静岡県赤十字血液センターの要請に応えるべく蒲原工場では従業員が率先して協力をしています。

今後も「助け合いの心」を大切に、協力を惜みず推進していくつもりです。

八尾製造所

八尾 クリーンキャンペーン

夏の猛暑も過ぎ去り、食欲の秋が到来し、運動がしたくなる季節となった、2014年10月16日 八尾プリズムホールに於いて、八尾市民や企業関係者 約250人が参加する「クリーンキャンペーン」が開催されました。

八尾をきれいにする運動推進本部・本部長より、長年にわたり日常的に美化活動を実践してこられた方々に対し感謝状が贈呈された後、「きれいだね! そう呼ばれたい八尾のまち」を合言葉に、清掃が始まりました。

参加者がポイ捨てされた空き缶や空容器などを回収し、やがて近鉄八尾駅前には膨大なゴミが集められました。

今回、八尾製造所からは環境調和委員2名が参加させて



清掃作業

いただきましたが、次回からはより多くの参加を募り、八尾製造所全員の美化意識の向上に繋げていきます。

東海アルミ箔株式会社
精神障がい者フットサル大会
『横浜FCヨコハマぼるとカップ』

東海アルミ箔(株)ではJリーグ横浜FCが主催する『横浜FCヨコハマぼるとカップ』に毎年新入社員がボランティアスタッフとして運営のお手伝いをしています。

東海アルミ箔(株)は社会貢献活動、地域スポーツ振興による地域貢献活動として横浜FCとドリームパートナー契約を結んでいます。「横浜FCヨコハマぼるとカップ」は横浜市共催の福祉事業で、精神疾患や、知的障がいのある方のフットサル大会で毎年12月に開催されます。パートナー料はこの「ヨコハマぼるとカップ」の運営費用としても利用されます。

「ヨコハマぼるとカップ2014」は12月13日に開催されました。東海アルミ箔(株)からの新入社員研修の場としてのボランティア活動参加は3回目となりました。寒い時期の活動ですが参加者からは白熱したプレーに興奮したとか、貴重な経験となり充実した一日になったなどの意見が出ています。



横浜FCヨコハマぼるとカップの様子

学術支援活動

東洋アルミグループでは、軽金属関連の研究を支援しています。

公益財団法人 軽金属奨学会の活動



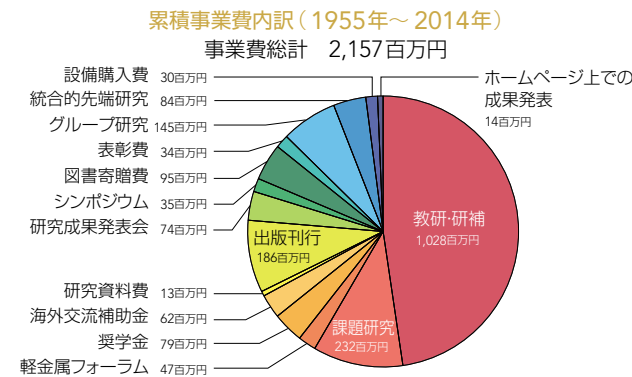
(公財)軽金属奨学会は、1955年(昭和30年)

1月に、当時の東洋アルミニウム(株)の創立25周年記念事業の一環として、同社の大株主であったアルカン・アルミニウム・リミテッドの協力を得て設立されました。

その目的とするところは、軽金属に関する学術の研究および教育を助成奨励し、軽金属工学の進歩に寄与するところにあります。そして、軽金属工業および軽金属工学の振興助成のためには、その基礎となる大学での研究教育を充実させることが大切であるという認識の下に、事業の重点を大学における軽金属教育や研究の助成に置いて、諸活動を展開してきました。

具体的な活動としては、教育研究資金、研究補助金、海外交流補助金といった1件で10万円から25万円と小口ですが多数の先生方を対象にしたものと、課題研究^{*1}や統合的先端研究^{*2}といった1件で1,000万円から2,000万円(ともに2年間)の研究資金を提供するものがあります。その他に各大学図書館への軽金属関係文献の寄贈、軽金属学会活動の援助、軽金属研究者の表彰などを行っています。

以下に、2014年度までの60年間の累積事業費(除く管理費)総額及び内訳を示します。



当会は、2010年8月26日付で公益財団法人として認定されました。又、2015年1月に創立60周年を迎える事ができましたが、今後共、従来と変わらず基礎研究の分野にスポットをあてた運営を継続すると共に、時代の要請に柔軟に対応し、堅実に事業を実施していく所存であります。

東洋アルミグループは、この財団を設立以来60年間、ずっとその活動に協賛し応援を続けています。



60周年記念式典で挨拶される今須理事長

課題研究^{*1}:

従来の軽金属材料のもつ特性を凌駕する性質をもつ材料の開発を指向する研究であり、意欲的に挑戦しようとする若手研究者に資金を交付しています。2014年には「高機能鋳造アルミニウム用微細化剤の創製に向けて」というテーマで成果発表を行いました。

統合的先端研究^{*2}:

中心的研究課題研究に対して、研究手法の異なる複数のグループの協力関係による横断的成果公表を指向し、将来に向けて、軽金属に関する高度な教育・研究基盤を確立できる研究集団を助成対象としています。一昨年は、「アルミニウム合金の塑性加工の限界への挑戦」というテーマで成果発表会を開催しました。

学生フィールドワーク

軽金属学会関西支部の活動のひとつに大学生を対象とした学生フィールドワークというものがあります。これは、アルミニウムという金属が企業でどのように作られ、どのようなところに使われているのかを学ぶという活動です。

2014年度は八尾製造所をモデル工場として大学生の皆さんを招き、会社の概要説明と工場見学を実施しました。

アルミニウムの板を薄く延ばしていく工程(圧延工程)からできあがった箔を身近な包装材にする工程(加工工程)まで見学した学生の皆さんからは「1つの工場で箔の製造から加工までを一貫して行っており、箔製品の効率の良い生産ができていると感じた」、「圧延について大学の授業で学んだことがあったが、実際に工場ではさまざまな形状制御方法があることを知ることができた」などの感想をいただきました。

また、今回のフィールドワークで体験された内容は、軽金属学会若手研究者の発表会という場で披露されたそうです。



フィールドワーク

ソーラー開発部

寺澤 孝展

八尾製造所加工工場のさまざまな製造設備を工程としての役割が分かるよう意識してご説明しました。

熱心な学生さんばかりで、日ごろ目にする事ができない回路製品の材料などを、興味深く見学されていました。学生さんからは「不良品がでたらどの様に対応するのですか」など、ストレートな質問には戸惑いましたが、日ごろの業務では気付きにくい新鮮な目線を感じる良い機会となったと感じております。



東洋アルミニウム株式会社

<http://www.toyal.co.jp/>

大阪オフィス

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号(御堂筋ダイワビル)

TEL (06)-6271-3151 (代表)

東京オフィス

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号(天王洲郵船ビル)

TEL (03)-5461-0711 (代表)

